

平成 24 年度  
施策目標に関する市民意識調査  
報告書

仙台市 総務企画局 企画部 企画調整課

# 目次

---

<b>I. 調査の概要</b> .....	1
1. 調査目的 .....	3
2. 調査項目 .....	3
3. 調査仕様 .....	3
4. 調査期間 .....	3
5. 回収率 .....	3
6. 報告書の見方 .....	4
7. 回答者の属性 .....	5
(1) 性別 .....	5
(2) 年齢 .....	5
(3) 住居形態 .....	5
(4) 職業 .....	5
(5) 世帯構成 .....	6
(6) 居住区 .....	6
(7) 仙台市の居住年数 .....	6
(8) 「り災証明」の状況 .....	6
(9) 母集団（仙台市の18歳以上の人口）との比較 .....	7
<b>II. 調査結果</b> .....	9
1. 復旧・復興施策 .....	11
(1) 項目別結果一覧 .....	11
(2) 力をいれるべき施策結果一覧 .....	13
(3) 設問別・属性別結果 .....	14
2. 復旧・復興以外の施策 .....	19
(1) 項目別結果一覧 .....	19
(2) 力をいれるべき施策結果一覧 .....	22
(3) 設問別・属性別結果 .....	24
3. 自由意見 .....	46
<b>III. 資料</b> .....	49
調査票 .....	51

# I . 調査の概要

## 1. 調査目的

本調査は、本市の東日本大震災からの復旧・復興や、施策の推進状況に関する市民の評価やニーズの変化を継続的に把握し、年齢層別の視点も含め総合的な分析を行い、その結果を施策の進捗管理に活かすことにより、本市の重点施策の推進を図ることを目的とする。

## 2. 調査項目

### (1) 東日本大震災からの復旧・復興施策

復旧・復興施策の進捗状況の認識、力を入れるべき施策

### (2) 復旧・復興以外の施策

施策の評価、力を入れるべき施策

## 3. 調査仕様

(1) 調査地域 仙台市全域

(2) 調査対象 仙台市に居住する満18歳以上の男女 5,000人

(3) 抽出方法 平成24年4月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

(4) 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配付・回収

## 4. 調査期間

調査票発送	回収締切	集計対象
平成24年6月8日	平成24年6月25日	平成24年7月2日

## 5. 回収率

	対象者数	有効回収数	有効回収率
平成24年度	5,000人	2,122票	42.4%

## 6. 報告書の見方

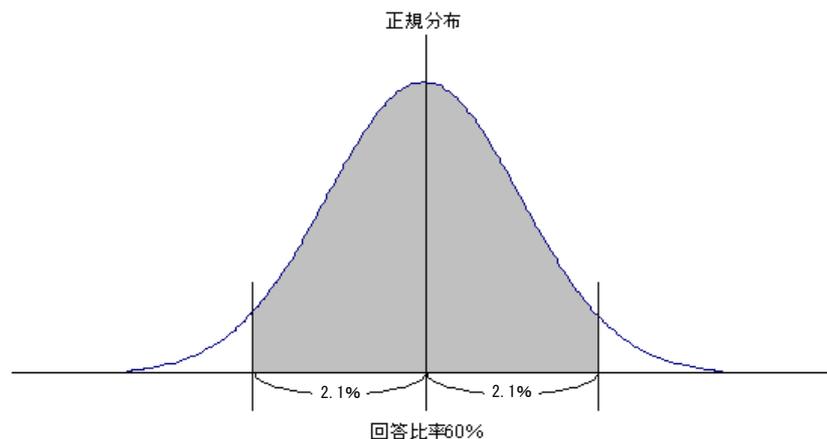
- ・調査数（N=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答等の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、構成比の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多岐選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・標本誤差<sup>※1</sup>は下記の通りである。  
等間隔抽出法<sup>※2</sup>の標本誤差は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = 2 \sqrt{\{(N-n)/(N-1)\} \times \{p \times (1-p)/n\}}$$

※N=母集団 n=比率算出の基数（サンプル数） P=回答比率

n	p	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,122		±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000		±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
500		±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
200		±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100		±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
50		±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

表の見方：ある設問の回答者数が2,122で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも2.1%以内（57.9～62.1%）とみることができる。  
また、標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）及び回答比率（P）によって異なる。



※1 標本誤差：標本調査の結果として得られた推計値の正確さを表す数値。この場合の標本調査は調査の客体を無作為に選んだものでなければならない。

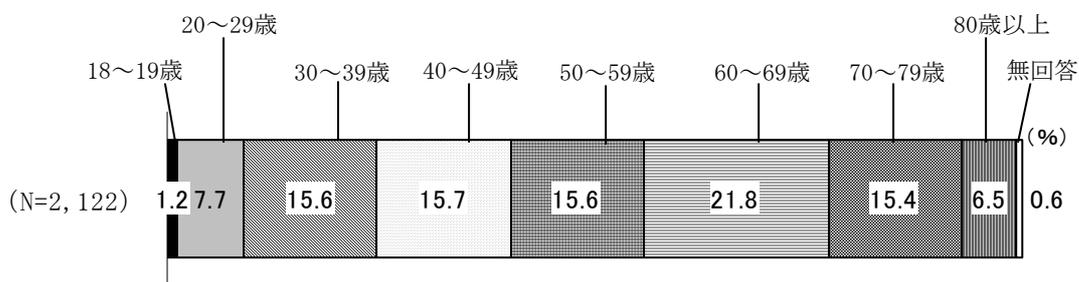
※2 等間隔抽出法：母集団の全てに通し番号をつけ、ランダムに出発番号を決め、一定の間隔毎にサンプルを抽出して行く方法。

## 7. 回答者の属性

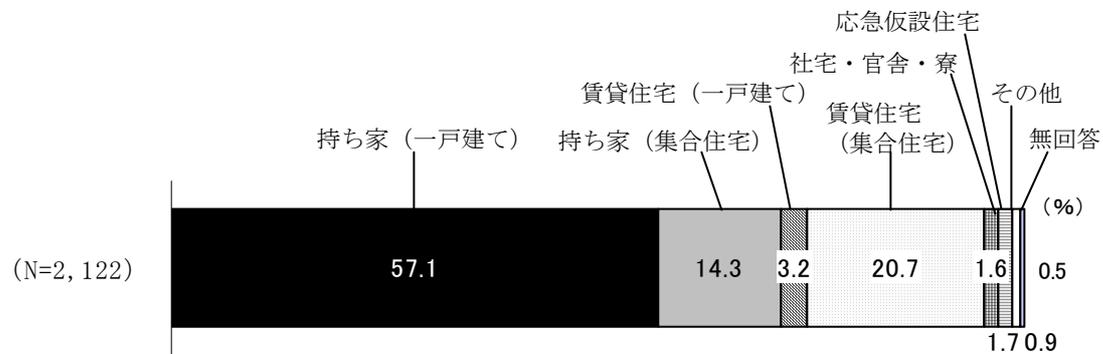
### (1) 性別



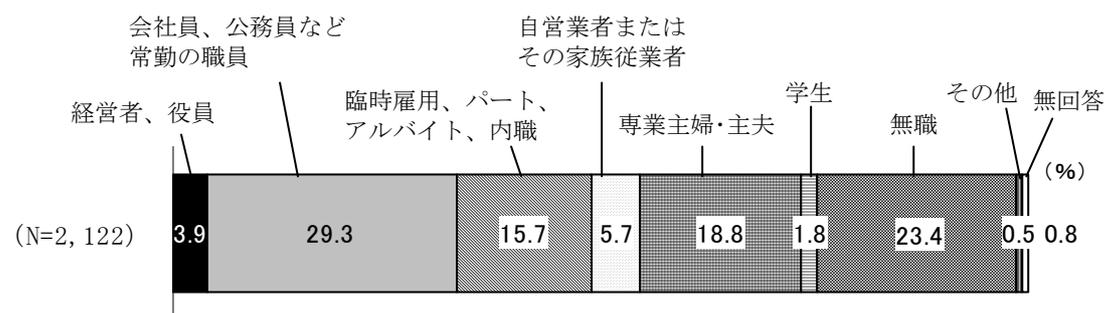
### (2) 年齢



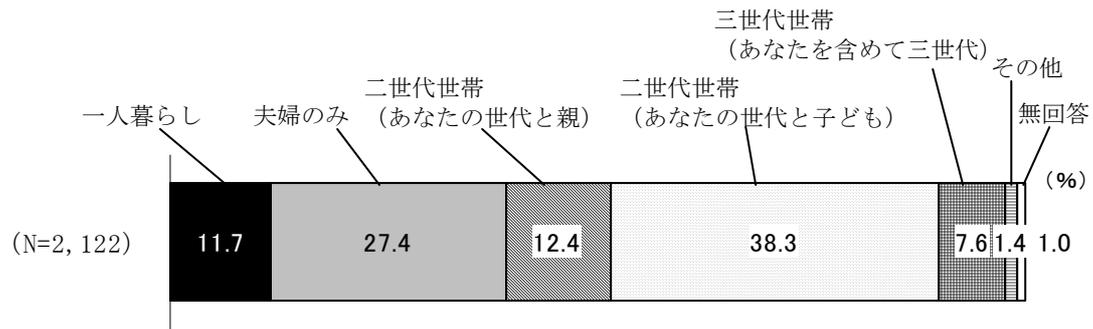
### (3) 住居形態



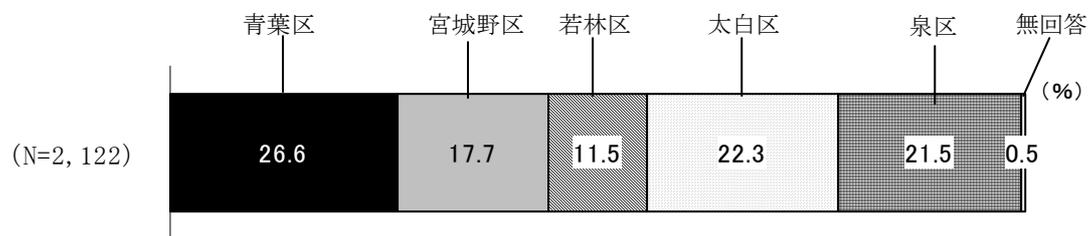
### (4) 職業



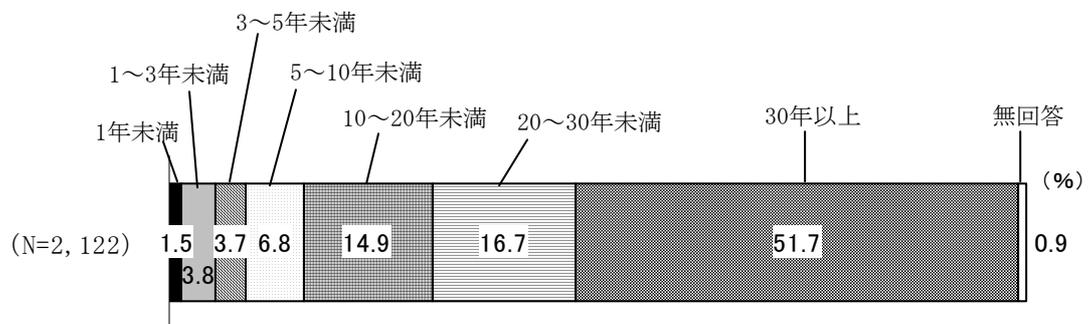
( 5 ) 世帯構成



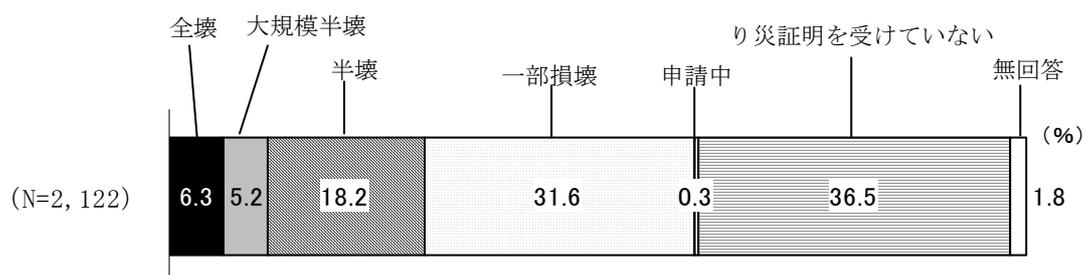
( 6 ) 居住区



( 7 ) 仙台市の居住年数



( 8 ) 「り災証明」の状況



## (9) 母集団(仙台市の18歳以上の人口)との比較

	母集団数 (人)	割合 (%)	有効回収数 (票)	割合 (%)
年齢層別				
18～29 歳	148,536	17.4	189	8.9
30～39 歳	160,252	18.7	330	15.6
40～49 歳	145,925	17.1	333	15.7
50～59 歳	126,285	14.8	332	15.6
60～69 歳	131,042	15.3	463	21.8
70～79 歳	87,965	10.3	326	15.4
80 歳以上	54,833	6.4	137	6.5
無 回 答			12	0.6
計	854,838	100.0	2,122	100.0
性別				
男 性	408,779	47.8	962	45.3
女 性	446,059	52.2	1,137	53.6
無 回 答			23	1.1
計	854,838	100.0	2,122	100.0

※母集団数は、平成24年4月1日現在 住民基本台帳による。

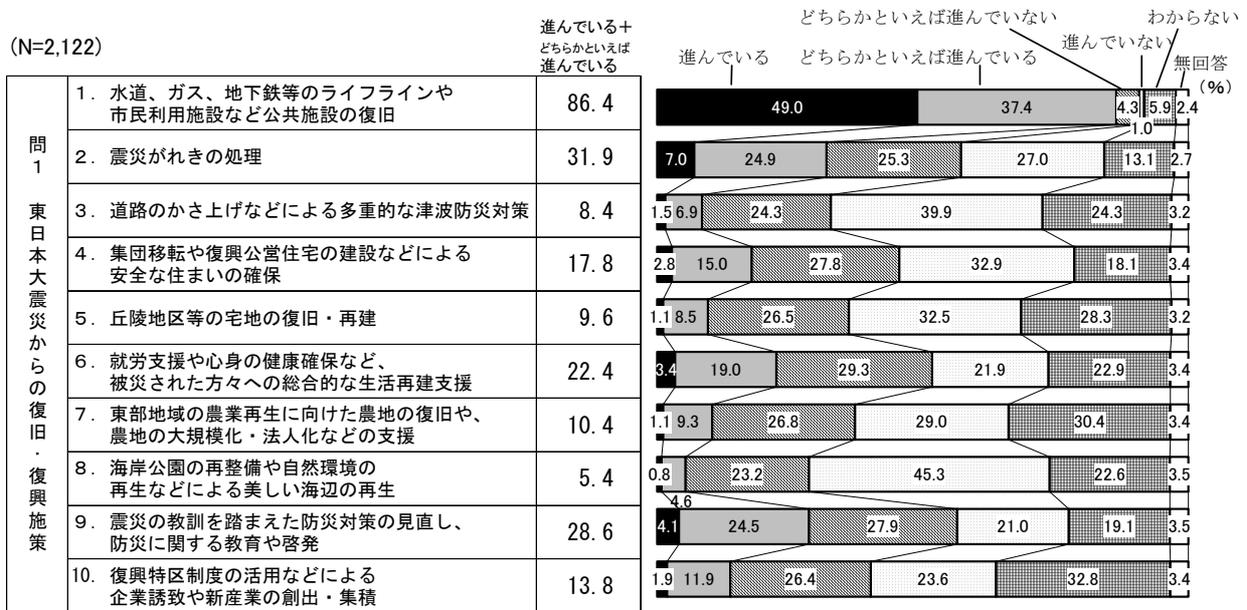


## II. 調查結果

# 1. 復旧・復興施策

## (1) 項目別結果一覧

問1 あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の1～10の施策それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



「東日本大震災からの復旧・復興施策」に対する回答について、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合を見ると、「1. 水道、ガス、地下鉄等のライフラインや市民利用施設など公共施設の復旧」が86.4%と最も高い評価となっている。これは、ライフラインについては、津波被害を受けた東部沿岸地域などを除きほぼ復旧されていること、また、公共施設については、津波被害を受けた下水処理施設や被災した道路の本復旧などが今なお進行中ではあるものの、いずれも市民生活に支障の生じない対応がなされていることなどから、こうした結果につながっているものと考えられる。

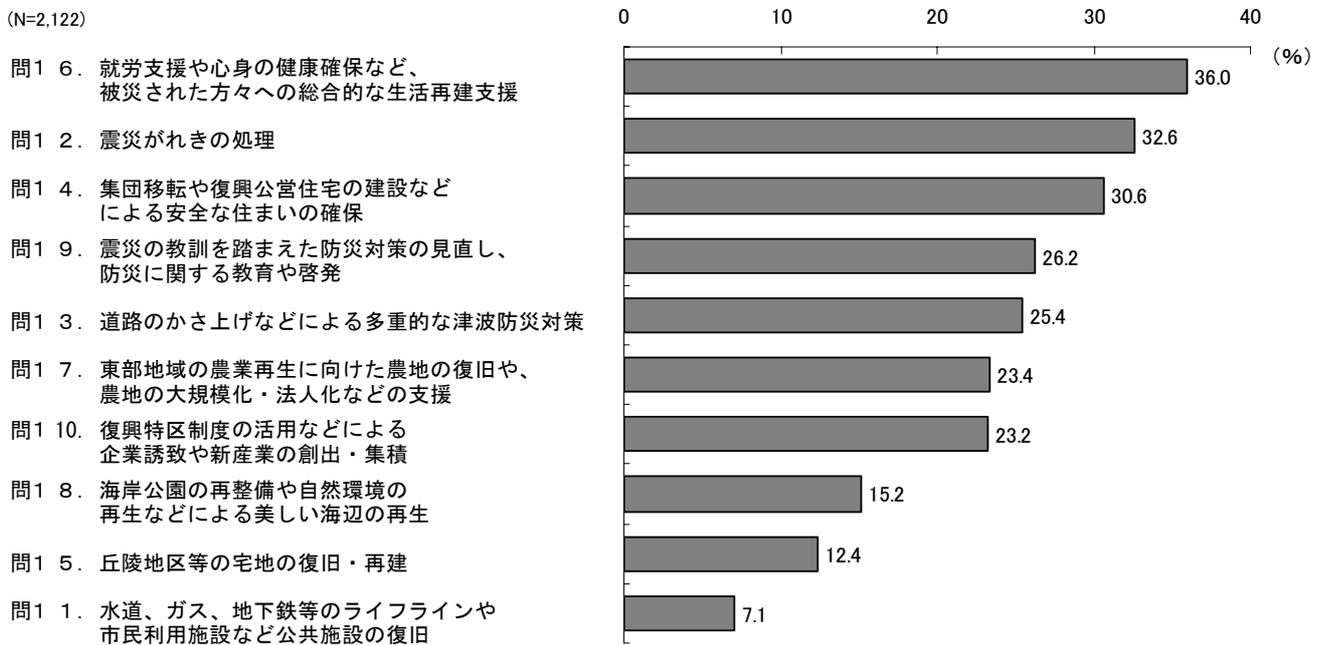
次いで、「2. 震災がれきの処理」(31.9%)と「9. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」(28.6%)が続いているが、これは、震災がれきについては、本市独自の方式により処理が進んでいること、防災対策の見直しについては、津波からの避難の手引き(暫定版)の作成・全戸配布や避難所運営マニュアルの見直しなどの取り組みが進んでいることなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

甚大な津波被害を受けた東部沿岸地域や、大規模な地滑りが発生した丘陵地域におけるハード面の取り組みについては、「8. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生」(5.4%)、「3. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」(8.4%)、「5. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建」(9.6%)、「7. 東部地域の農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援」(10.4%)、「4. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」(17.8%)となっているが、これらは、国等の関係機関との協議調整や被災された方々との合意形成を図っている段階にあることなどから、こうした結果につながっているものと考えられる。

また、これらの施策については、“わからない+無回答”の割合が30%前後と相対的に高くなっている。これは、被災地域に限定したハード事業であるため、地理的な関わりの濃淡などにより認識度が相違している状況が反映されているものと考えられる。今後、これら復興施策の取り組みを加速することはもちろん、“百万人の復興”として、市民の総意を得ての取り組みとなるよう、施策の進捗状況を広く発信していくことが必要である。

## (2) 力をいれるべき施策結果一覧

問1 今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)



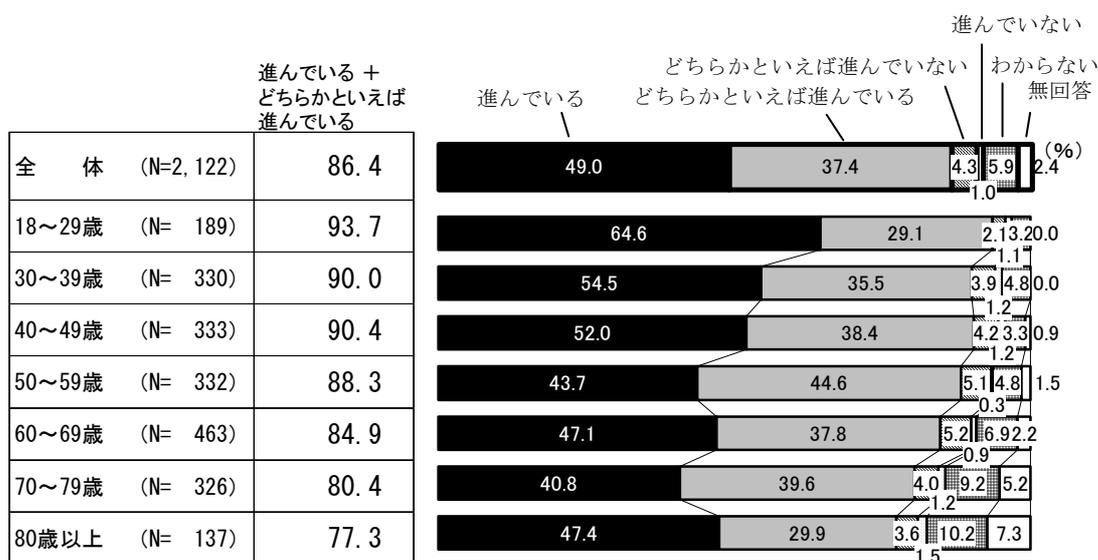
今後特に力をいれるべき施策については、「6. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援」(36.0%)が最も多く、以下、「2. 震災がれきの処理」(32.6%)、「4. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」(30.6%)の順となっている。これらは、いずれも、東日本大震災によって失われた日常の回復に向けての施策であり、一日も早い生活再建を願う市民の強い意向が伺われる。

次いで、「9. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」(26.2%)、「3. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」(25.4%)が続いているが、これらは防災力の強化につながる施策であり、将来に向けての安全の確保が重要と市民が考えている様子が伺われる。

「1. 水道、ガス、地下鉄等のライフラインや市民利用施設など公共施設の復旧」(7.1%)が最も少ないが、これは、施策の進捗に関する質問において、最も高い評価を得ていることと符合するものである。

(3) 設問別・属性別結果

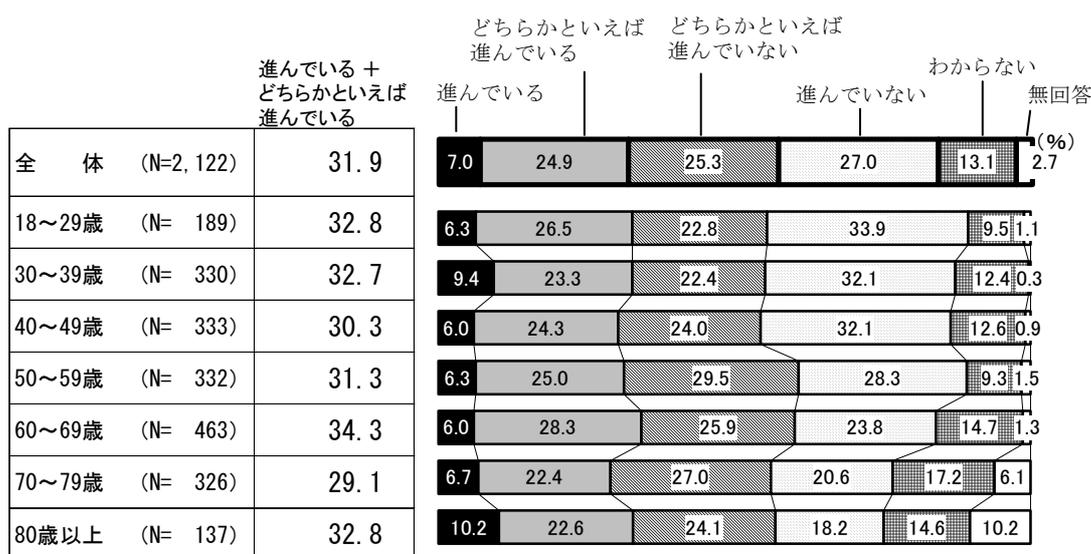
問1 1. 水道、ガス、地下鉄等のライフラインや市民利用施設など公共施設の復旧



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が86.4%と非常に高く、また、“わからない+無回答”が8.3%と低い。これは、ライフラインや公共施設が一部の地域や箇所を除き復旧が進んでいることが、大方の市民により認識されていることによるものと考えられる。

年齢層別では、概ね年齢層が下がるほど“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が高くなる傾向が見られ、特に18~29歳では93.7%となっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

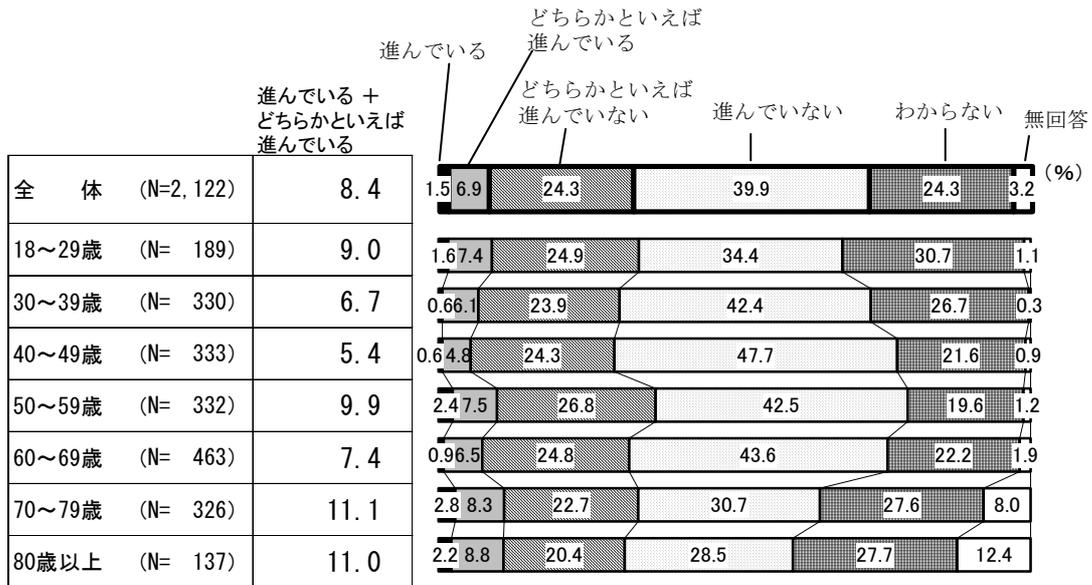
問1 2. 震災がれきの処理



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が31.9%となっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合には大きな差異は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

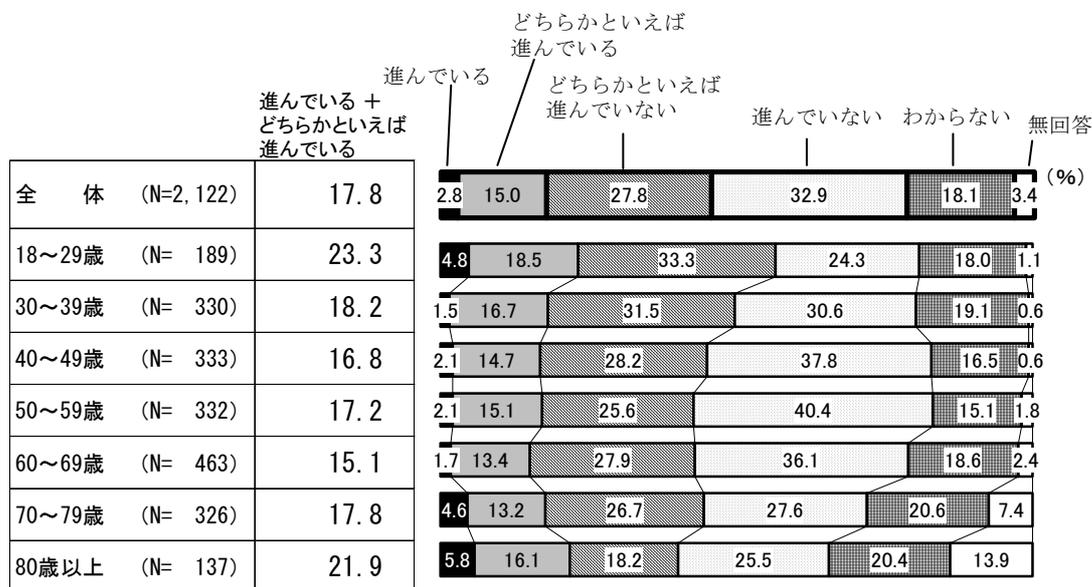
問1 3. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が8.4%と低いうえ、“わからない+無回答”は27.5%と高く、本施策が整備工事等の着手前の準備段階にあるということが影響しているものと考えられる。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合に大きな差異は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合は、若年層及び高齢層で高い傾向が見られる。

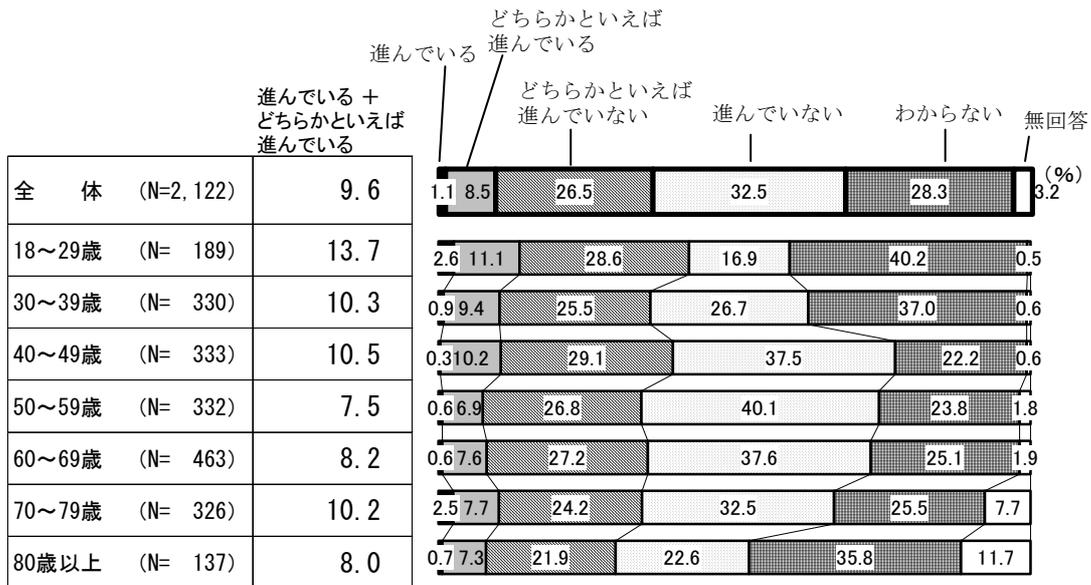
問1 4. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が17.8%と低い。これは、本施策が、国等の関係機関との協議調整や被災された方々との合意形成を図っている段階にあることによるものと考えられる。

年齢層別では、18~29歳及び80歳以上で“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が他の年齢層に比べ高い傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳代以上で高くなっている。

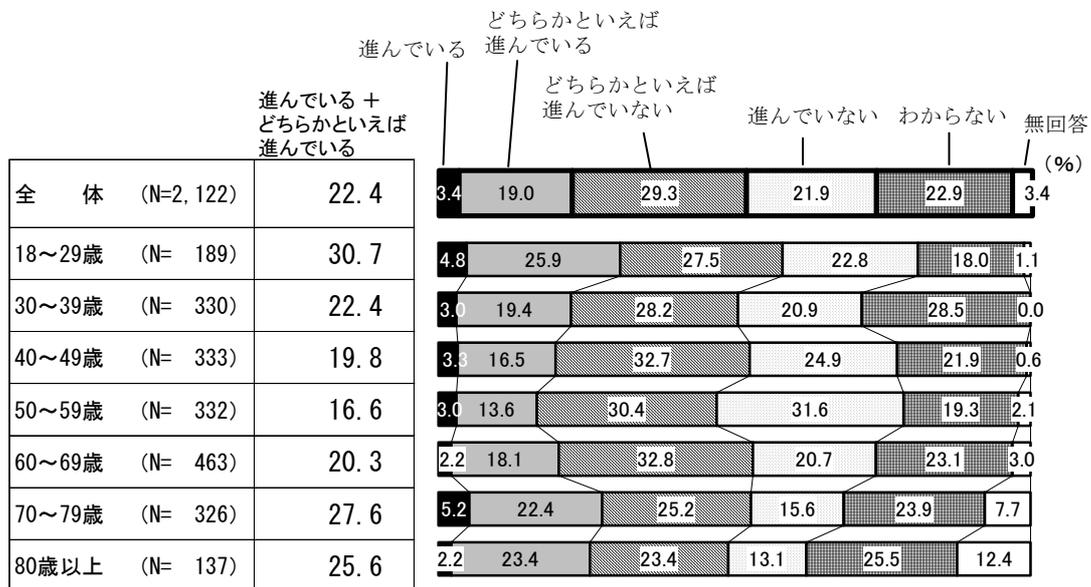
問 1 5 . 丘陵地区等の宅地の復旧・再建



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が9.6%と低い一方、“わからない+無回答”が31.5%と高く、本施策が、国等の関係機関との協議調整や被災された方々との合意形成を図っている段階にあることが、こうした結果につながっているものと考えられる。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合に特徴的な傾向は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合は、若年層及び高齢層で高くなっている。

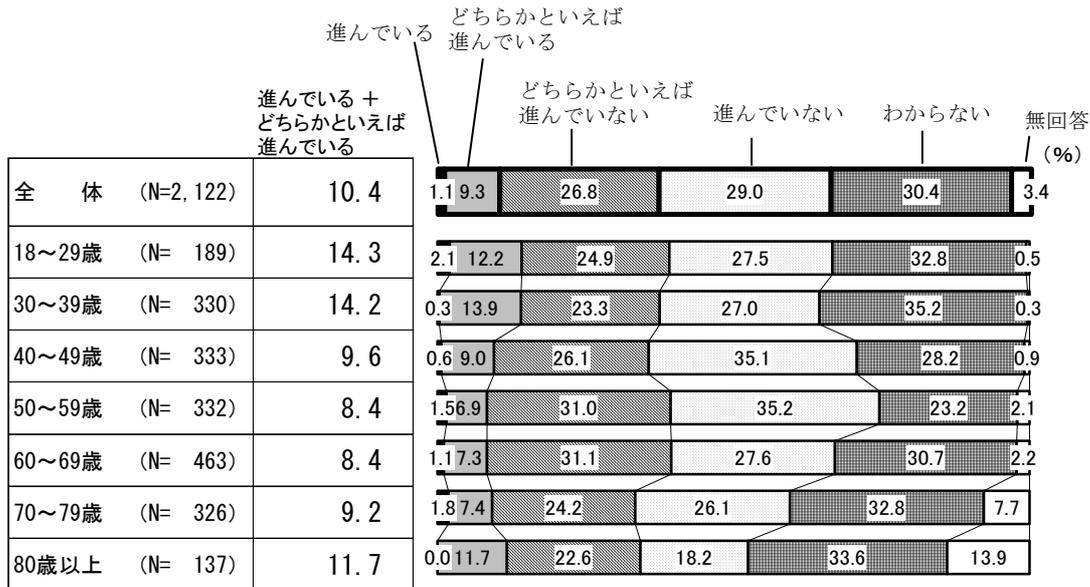
問 1 6 . 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が22.4%となっている。一方、“わからない+無回答”の割合は26.3%と高めである。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合は、若年層及び高齢層の数値が他の年齢層に比べ高い。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

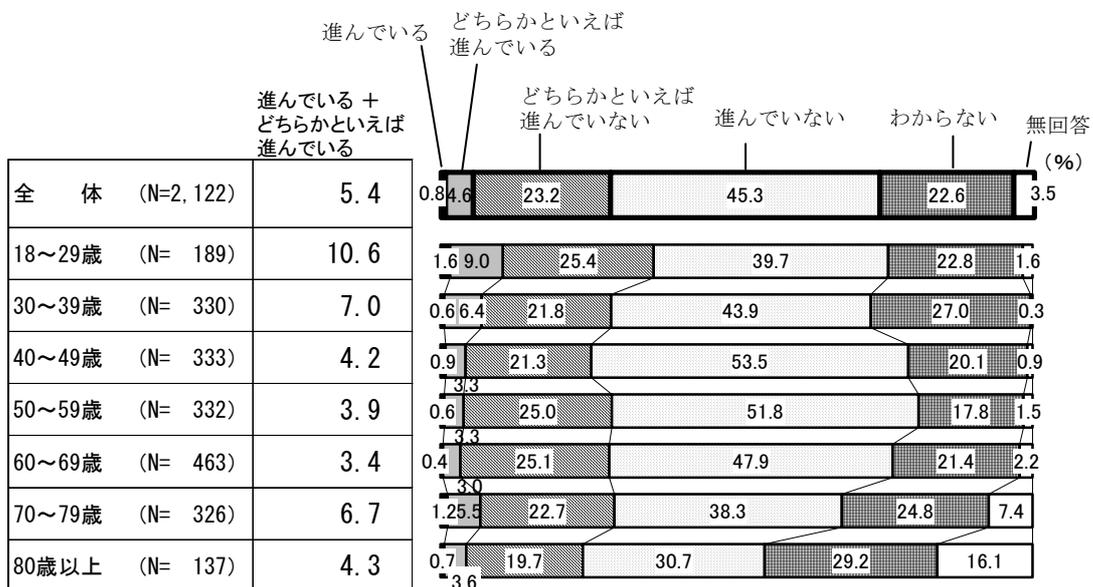
問1 7. 東部地域の農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が10.4%と低い一方、“わからない+無回答”は33.8%と高い。これは、東部地域の農地が未だ除塩等の復旧を行っている段階であることなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

年齢層別では、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっている。

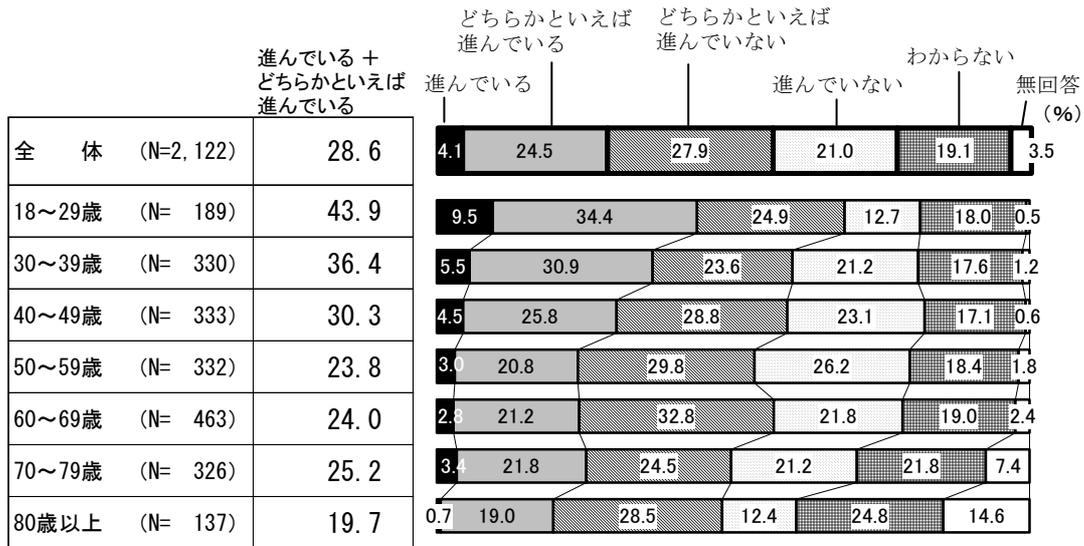
問1 8. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が5.4%と低い。これは、海岸公園の敷地の一部が震災廃棄物処分場として利用されており、再整備工事に着手できないことなどが影響しているものと考えられる。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合には特徴的な傾向は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合が、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

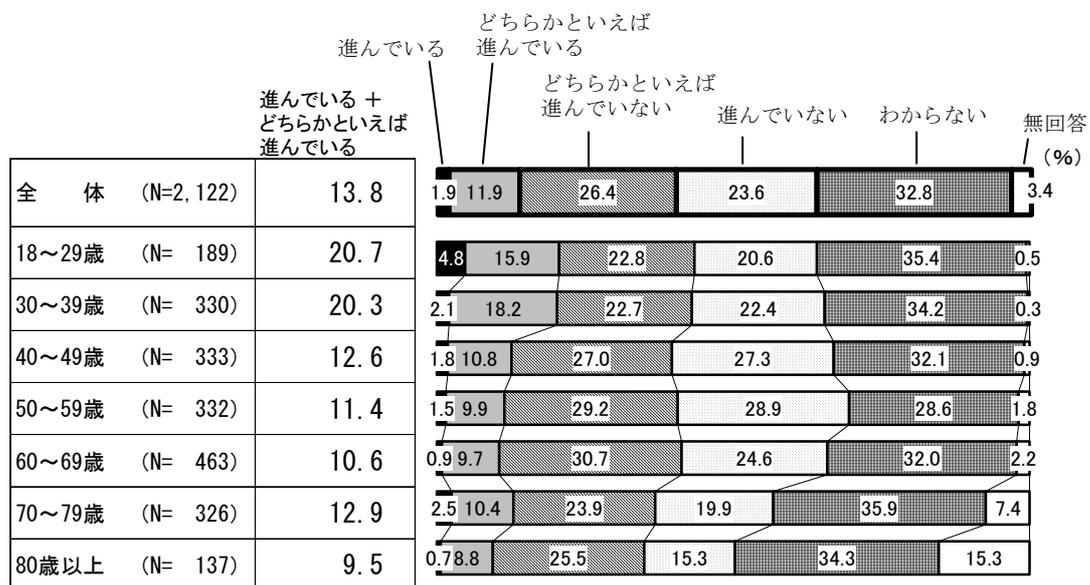
問 1 9 . 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が28.6%となっている。

年齢層別では、若年層ほど“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が高くなる傾向が見られ、特に18~29歳は“進んでいない+どちらかといえば進んでいない”を上回っている。

問 1 10 . 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積



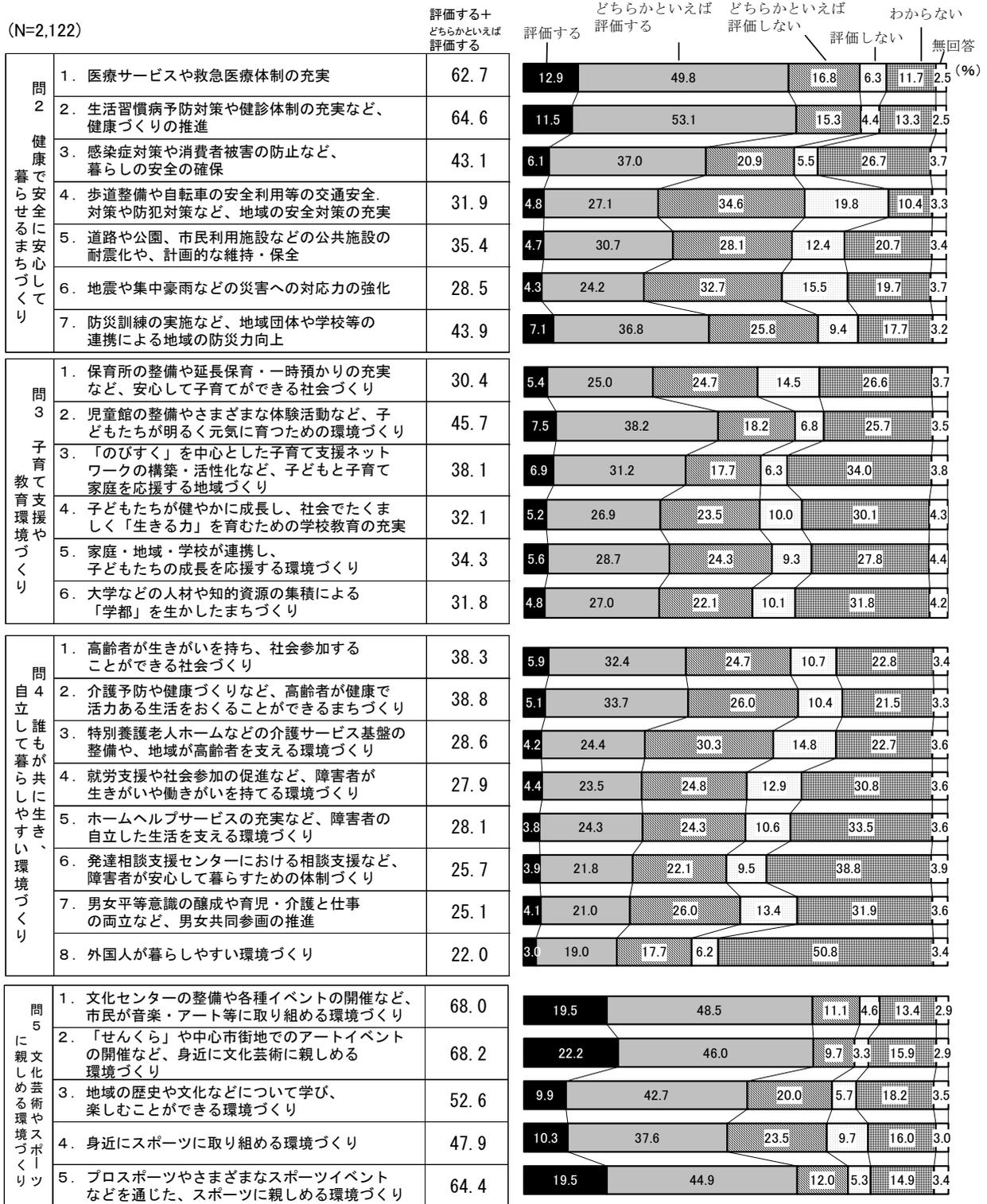
全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が13.8%と低い。一方、“わからない+無回答”の割合は36.2%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合は、概ね年齢層が上がるほど低くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

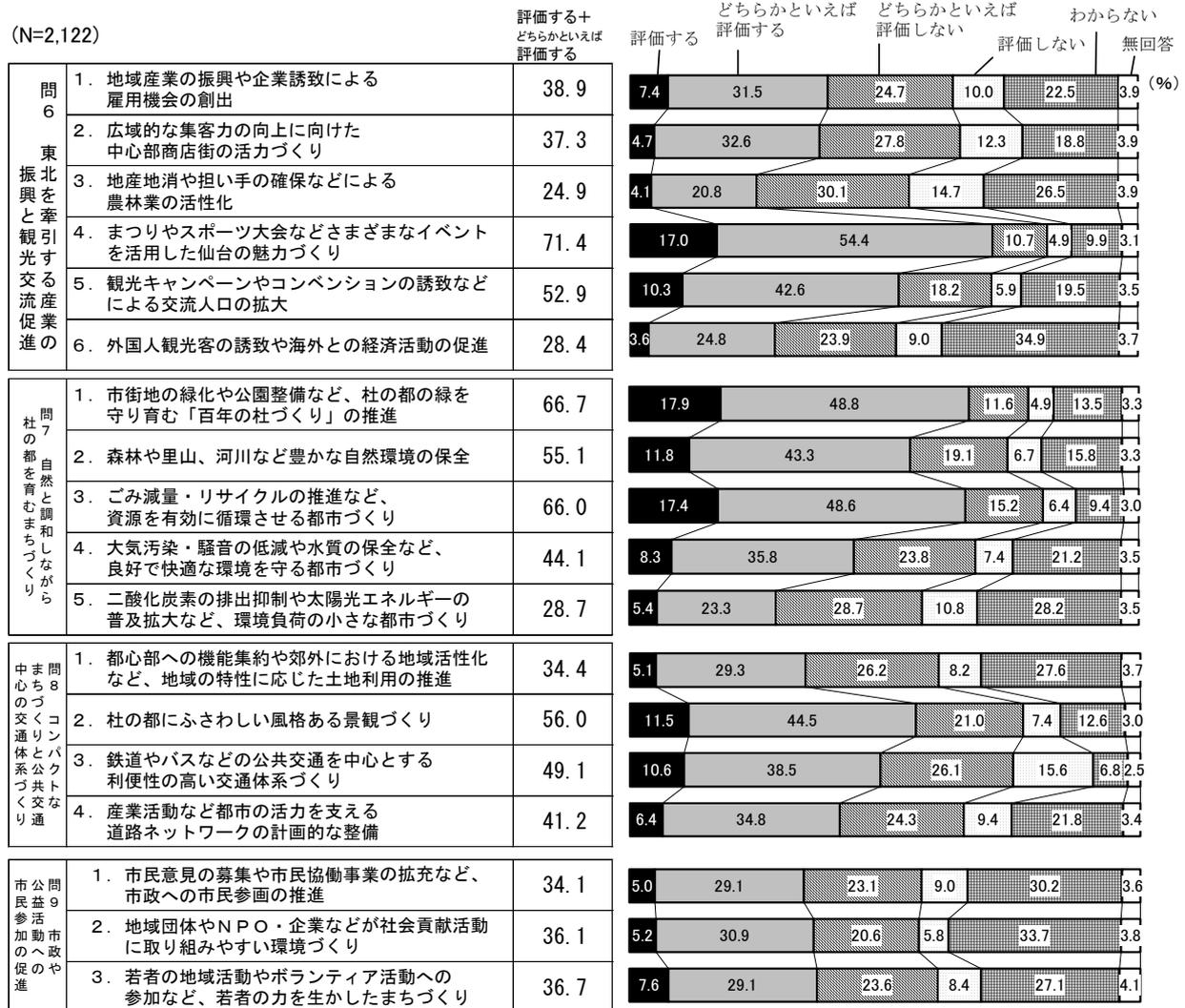
2. 復旧・復興以外の施策

(1) 項目別結果一覧

問2～問9 仙台市の各取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



(N=2,122)



「問2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進」(64.6%)、「1. 医療サービスや救急医療体制の充実」(62.7%)が、高い評価を得ている。これは、本市の医療体制や保健事業・健診体制等が一定程度充実していることなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

「6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化」(28.5%)については、東日本大震災の経験の影響が大きいものと考えられる。

「問3 子育て支援や教育環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2. 児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり」(45.7%)の評価が最も高く、「3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり」(38.1%)が続いている。

「1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」(30.4%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が上回っており、保育に対する需要が、保育環境整備によるサービスの拡大を上回っている状況を反映したものと考えられる。

「問4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることのできるまちづくり」(38.8%)、「1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づ

くり」(38.3%)の順に評価が高いものの、「評価しない+どちらかといえば評価しない」の割合も同程度となっており、評価が分かれている。

高齢者や障害者を支える環境づくりや男女共同参画に関する項目では、総じて「評価しない+どちらかといえば評価しない」の割合が上回っており、施策の充実を求める状況が見られる。

「問5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」の「評価する+どちらかといえば評価する」の割合を見ると、「2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり」(68.2%)、「1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり」(68.0%)を筆頭に、総じて高い評価となっている。これは、せんだいメディアテークをはじめとした多くの文化・スポーツ施設の整備に努めるとともに、「せんくら」や仙台国際音楽コンクール、仙台国際ハーフマラソンなど多くのイベントの実施、大規模国際イベントの招致、プロスポーツ支援などを継続的に推進してきたことが評価された結果と考えられる。

「問6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」の「評価する+どちらかといえば評価する」の割合を見ると、「4. まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり」(71.4%)、「5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大」(52.9%)が、高い評価を得ている。これは、四季折々に開催される多彩なまつり・イベントや、大型観光キャンペーン、伊達武将隊などによるプロモーション活動が市民に広く認知されていることなどが評価につながっているものと考えられる。

その他の経済施策については、「評価しない+どちらかといえば評価しない」の割合が、同程度か上回っており、本市の経済状況が復興需要による緩やかな回復傾向にあるものの、さらなる取り組みが求められていることを表していると考えられる。

「問7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」の「評価する+どちらかといえば評価する」の割合を見ると、「1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進」(66.7%)、「3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり」(66.0%)の順に評価が高くなっている。これは、「杜の都」としてのこれまでのまちづくりや、キャラクターを活用した広報や紙類定期回収など、これまでのごみ減量・リサイクルへの取り組みなどが評価されたものと考えられる。

「問8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」の「評価する+どちらかといえば評価する」の割合を見ると、「2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり」(56.0%)の評価が高く、「杜の都」としての良好な都市イメージが広く共有されている様子が伺われる。

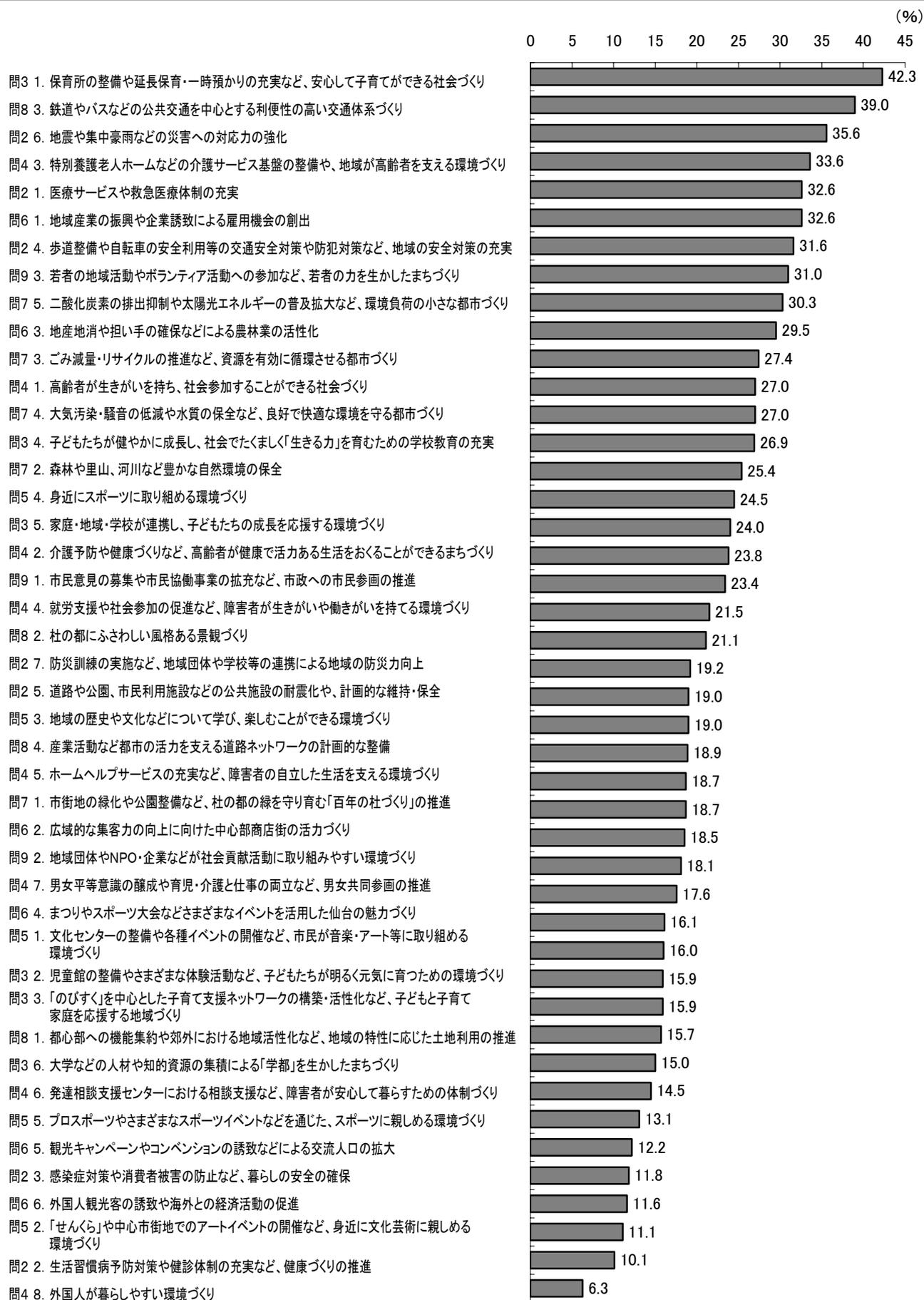
「3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」(49.1%)については、「評価しない+どちらかといえば評価しない」の割合も41.7%あり、評価が分かれている。

「問9 市政や公益活動への市民参加の促進」の「評価する+どちらかといえば評価する」の割合を見ると、「3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり」(36.7%)、「2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり」(36.1%)の順に評価が高いものの、「評価しない+どちらかといえば評価しない」の割合もそれぞれ32.0%、26.4%となっている。

この施策分野では、「わからない+無回答」の割合が、いずれの項目についても30%を超えており、これらの施策に対する関心度や認知度が低いことが伺われる。

## (2) 力をいれるべき施策結果一覧

問2から問9 今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)

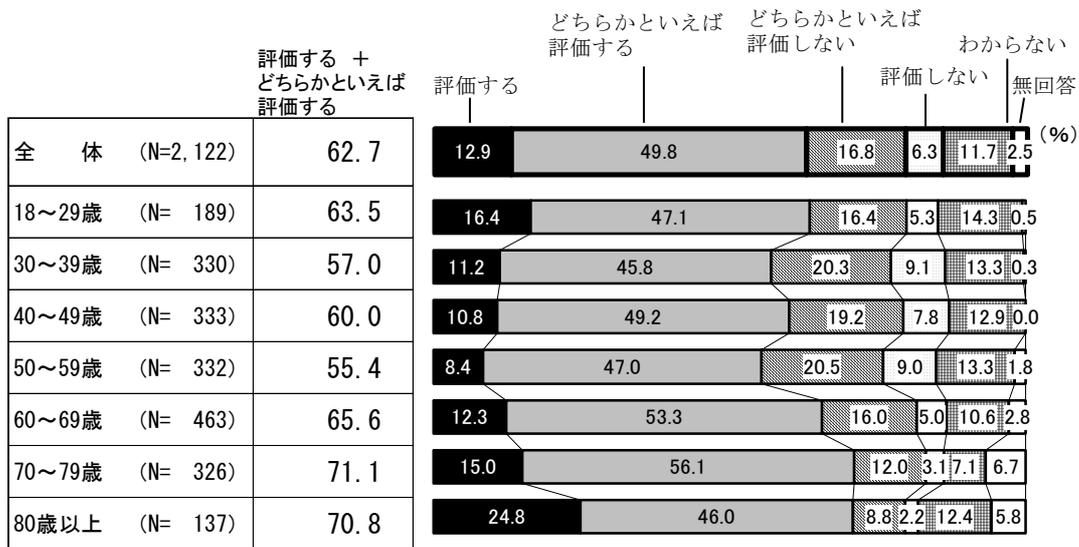


今後特に力を入れるべき施策については、「問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」(42.3%)が最も多く、保育環境の整備を重点的に進めてはいるものの、さらなる充実を求める声が根強い状況が伺われる。

以下、「問8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」(39.0%)、「問2 6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化」(35.6%)、「問4 3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり」(33.6%)、「問2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実」(32.6%)の順となっているが、これらは、日常の市民生活の利便性の向上や安全・安心の確保に向けての施策であり、これらのベーシックな施策にしっかりと取り組んだ上で、その他の施策の充実を求めるという構図が伺われる結果となっている。

(3) 設問別・属性別結果

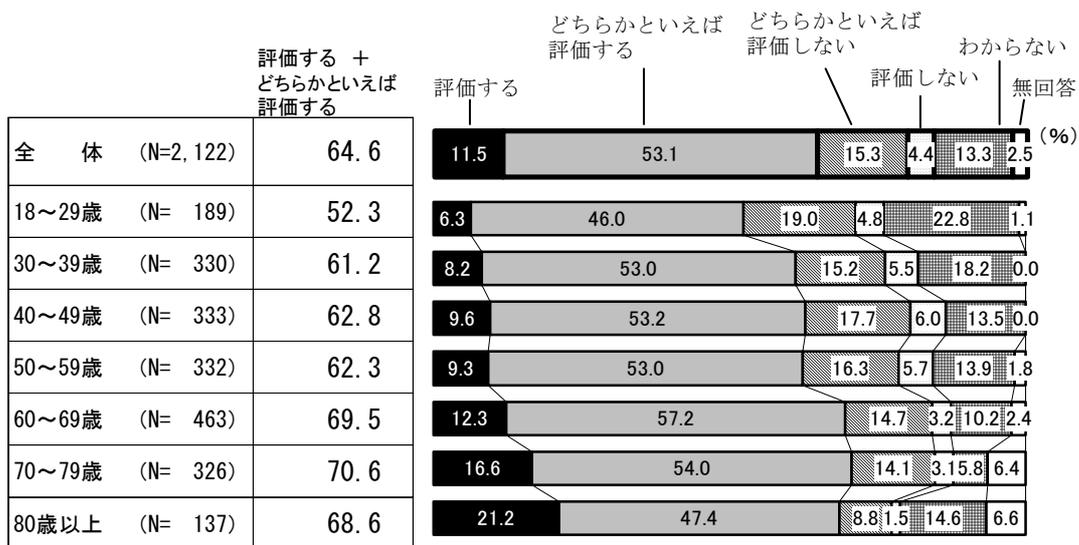
問2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が62.7%となっており、非常に高い。これは、本市の医療・検診体制が比較的充実していることによるものと考えられる。

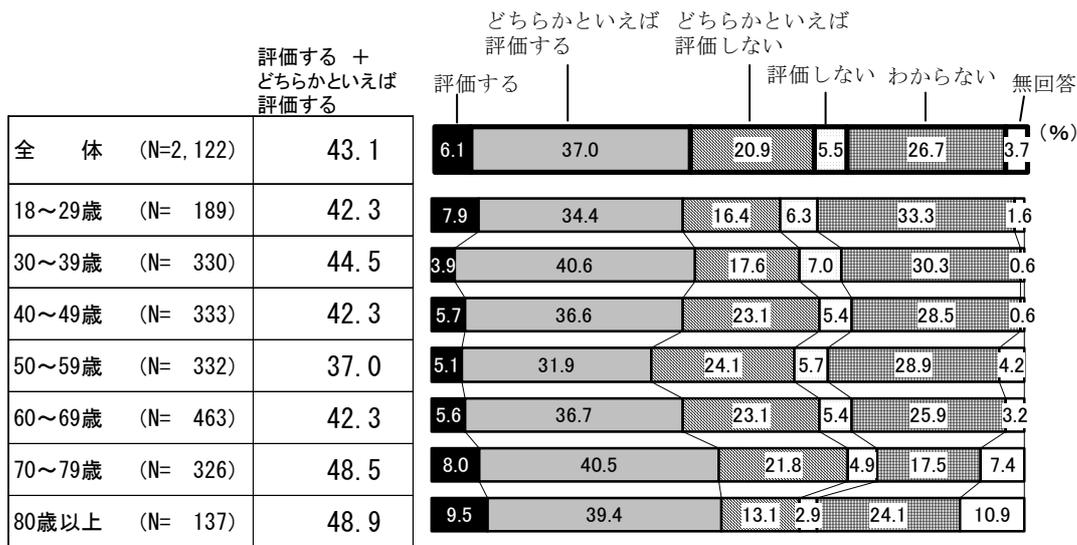
年齢層別では、60歳以上の高齢層における“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層に比べて高く、医療サービスを受ける機会が比較的多いと考えられる年齢層の評価は特に高い。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層別の差はあまり見られない。

問2 2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進



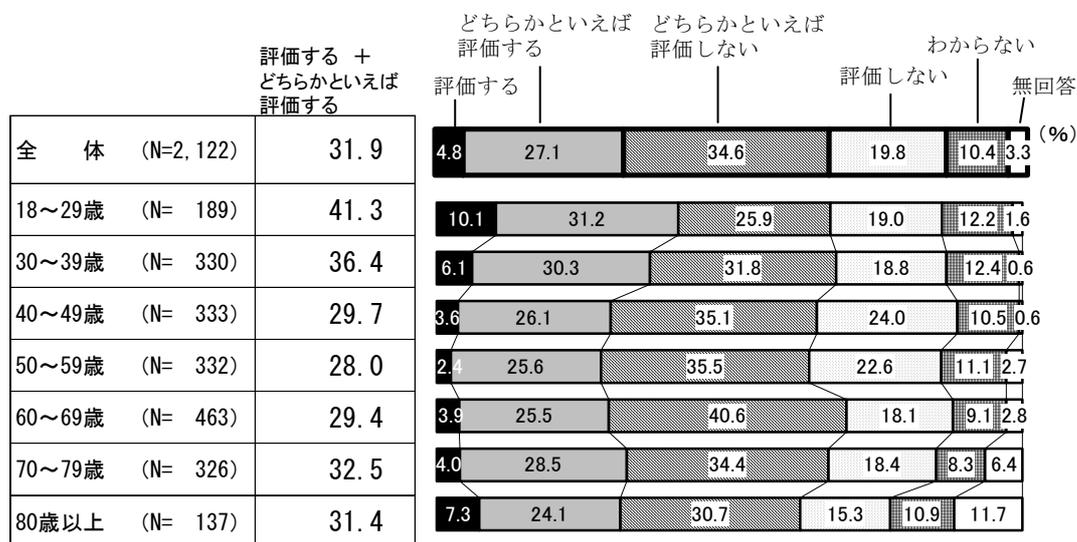
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が64.6%となっており、非常に高い。年齢層別では、概ね年齢層が上がるほど“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなる。一方、“わからない+無回答”の割合は、18~29歳と80歳以上で2割を超え、他の年齢層より高くなっているが、このうち18~29歳については、健康への関心度が影響しているものと考えられる。

問2 3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保



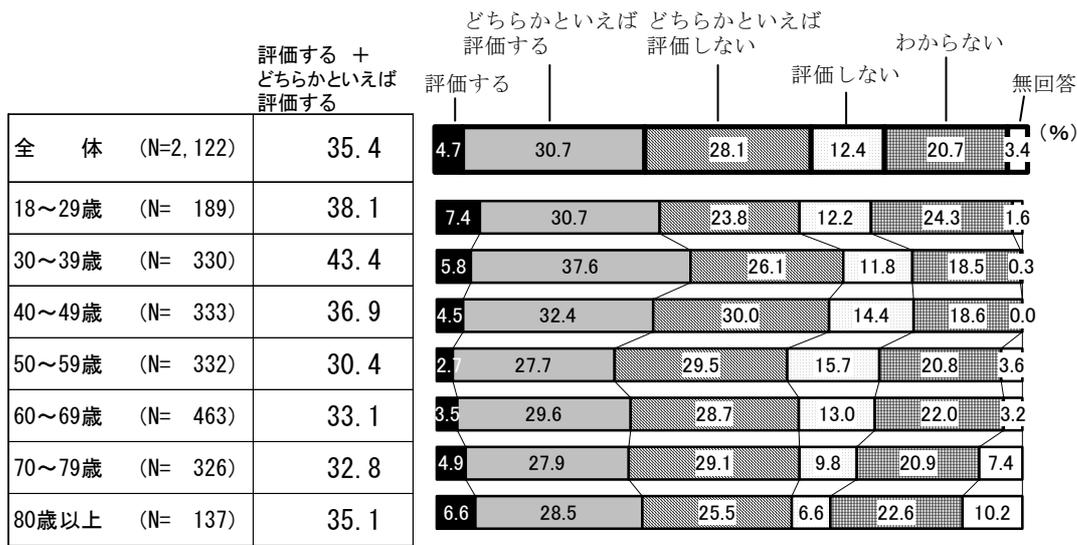
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が43.1%と、高めの評価となっている。一方、“わからない+無回答”の割合は30.4%と高く、施策の認知度が低いことを示している。年齢層別では、70歳代以上で5割近くが“評価する+どちらかといえば評価する”としており、他の年齢層よりも評価が高い。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層別の差はあまり見られない。

問2 4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が31.9%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(54.4%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は13.7%と、日常生活に関わる施策であるためか低めとなっている。年齢層別では、若年層及び高齢層で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が比較的高く、特に18~29歳は41.3%とその傾向が顕著である。一方、“わからない+無回答”の割合は、80歳以上のみ2割を超えている。

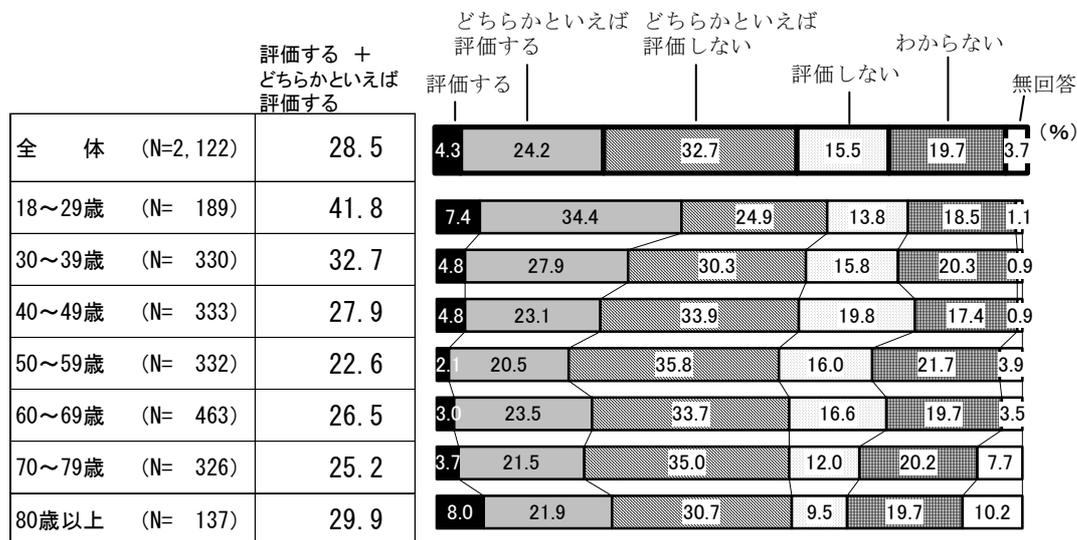
問2 5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が35.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(40.5%)を若干下回っている。

年齢層別では、30歳代以下及び80歳以上で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高めとなっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳代以上で他の年齢層より高くなっている。

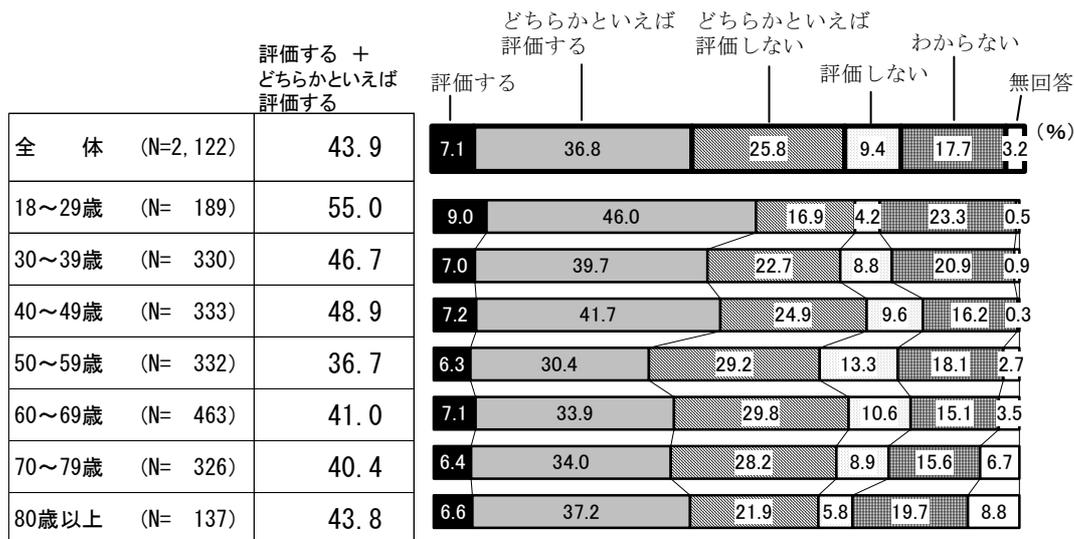
問2 6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.5%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(48.2%)を下回っている。これは、東日本大震災の経験が影響しているものと考えられる。

年齢層別では、若年層及び高齢層で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に18~29歳は“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

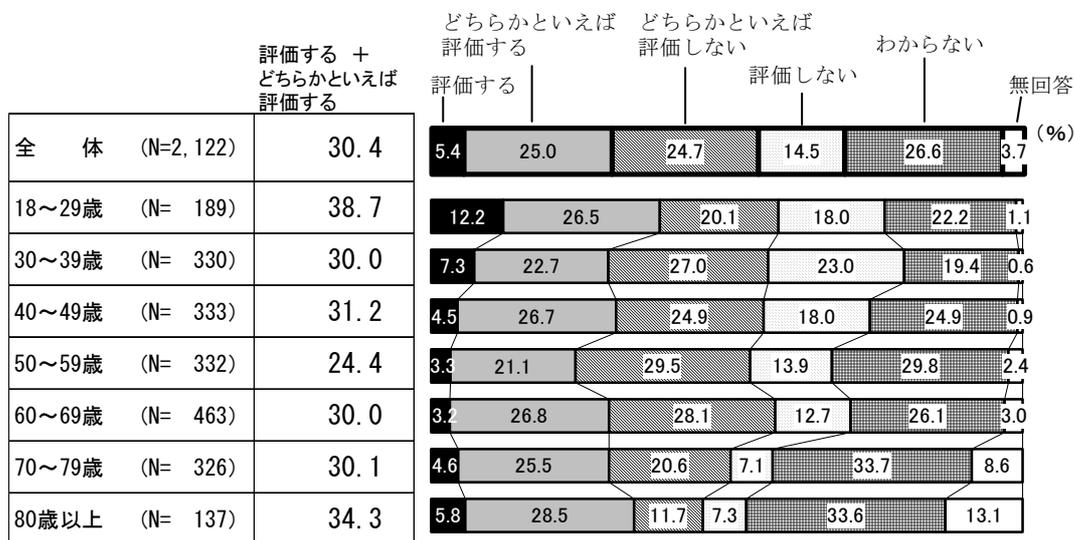
問2 7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が43.9%と高めとなっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(35.2%)を上回っている。

年齢層別では、40歳代以下で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に18~29歳では5割を超えておりその傾向が顕著になっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、若年層及び高齢層で高くなる傾向が見られる。

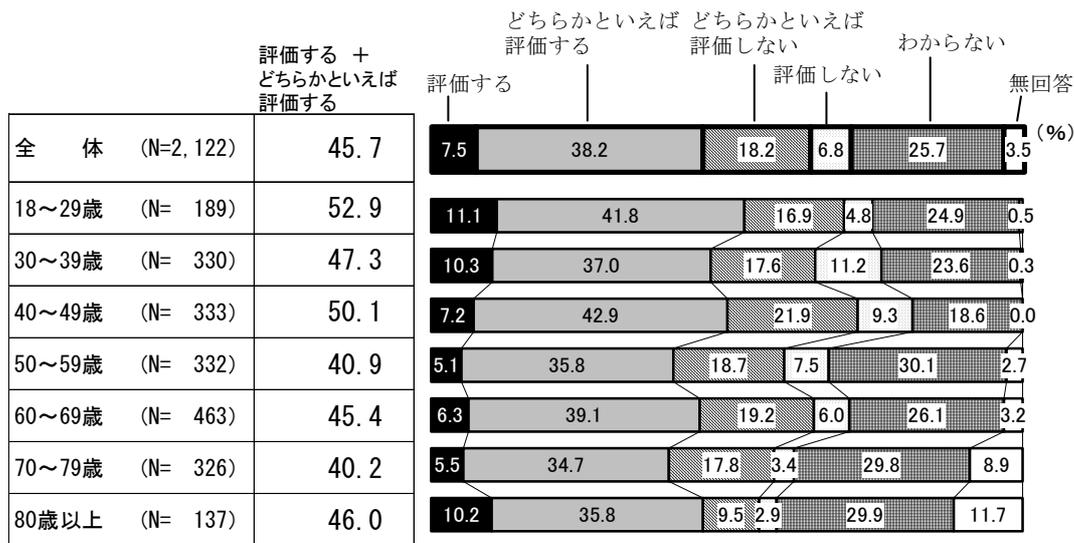
問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(39.2%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は30.3%と高い。

年齢層別では、施策の対象者が多いと考えられる世代の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、18~29歳では38.7%と高めである一方、30歳代では30.0%にとどまっておき、評価が分かれている。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が顕著であり、本施策への関心度の違いによるものと考えられる。

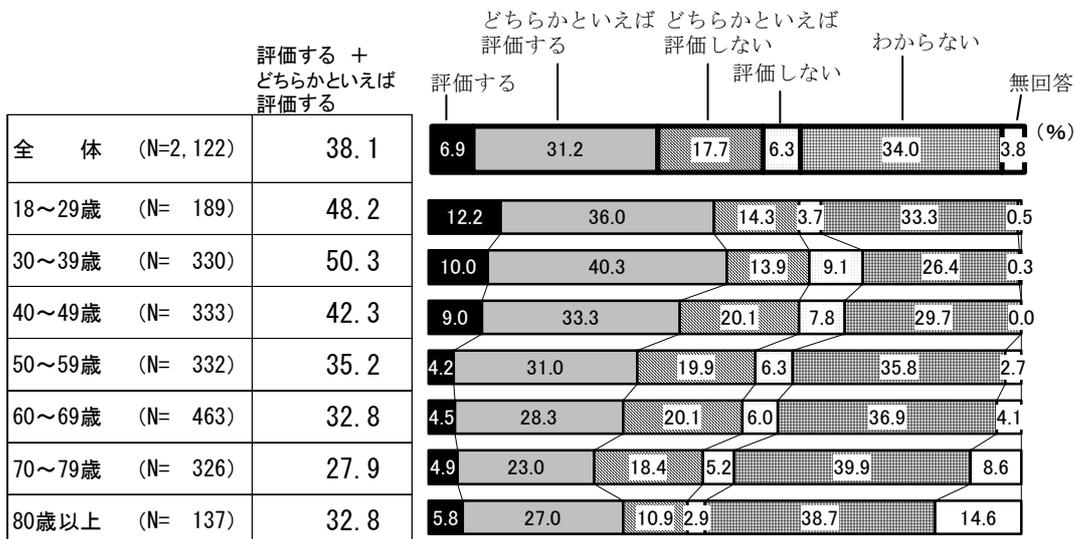
問3 2. 児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が45.7%と、高い評価となっている。一方、“わからない+無回答”の割合は29.2%と高めとなっている。

年齢層別では、施策の対象者が多いと考えられる30歳代では47.3%、40歳代では50.1%となっており、全体の傾向よりも高い。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳代以上で4割前後と他の年齢層より高くなっており、これは、本施策への関心度の違いによるものと考えられる。

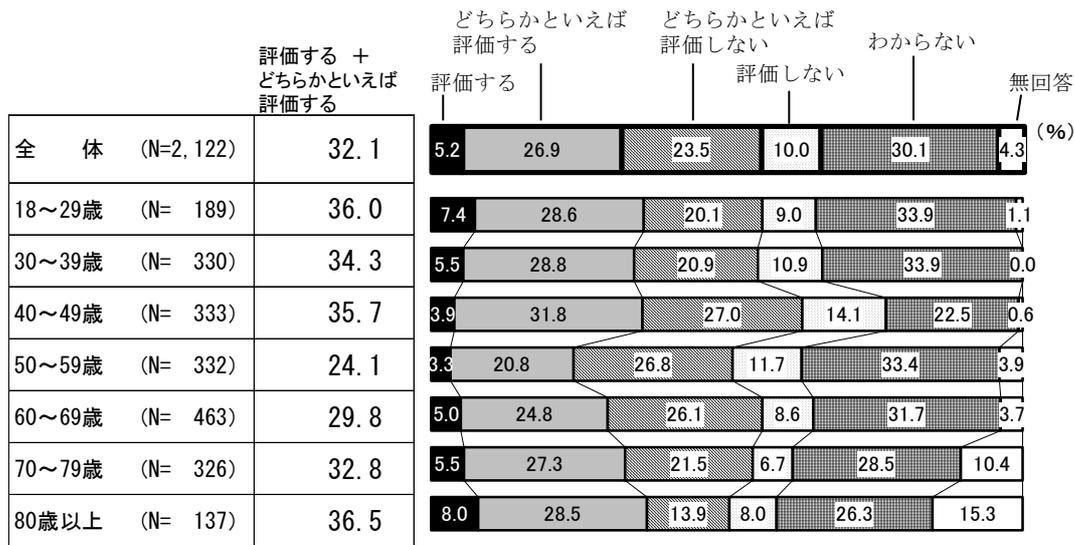
問3 3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(24.0%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”は37.8%と高く、施策の認知度が低いことも示している。

年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50.3%と最も高いなど、施策の対象者が多いと考えられる世代での評価が高い。一方、施策の対象となる世代から遠くなる高齢層ほど、“わからない+無回答”の割合が高くなる傾向が顕著となっている。

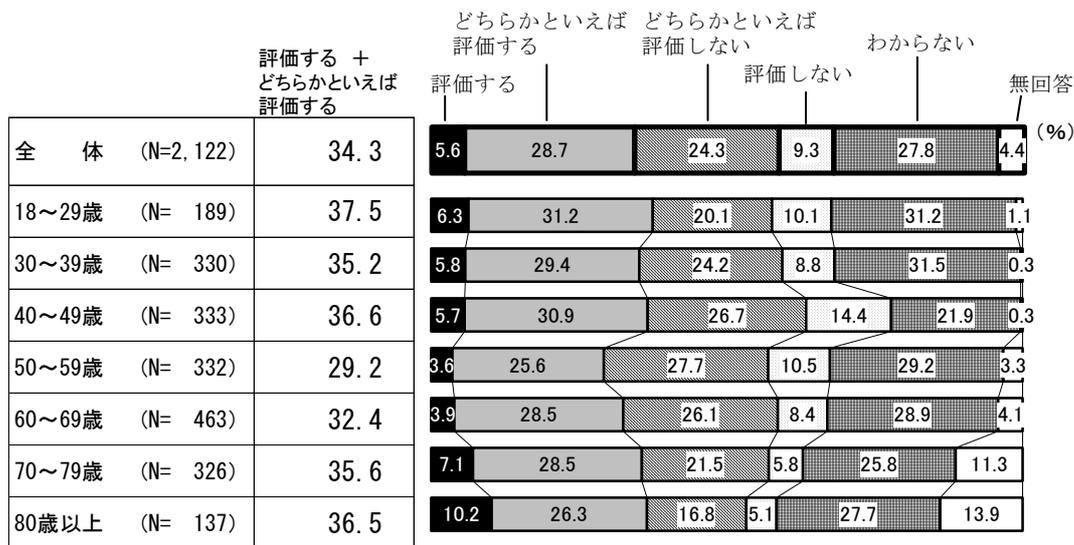
問3 4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が32.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.5%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は34.4%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、50歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が24.1%にとどまっており、他の年齢層に比べて低くなっている。“わからない+無回答”の割合は、他の年齢層より40歳代で低くなっている。

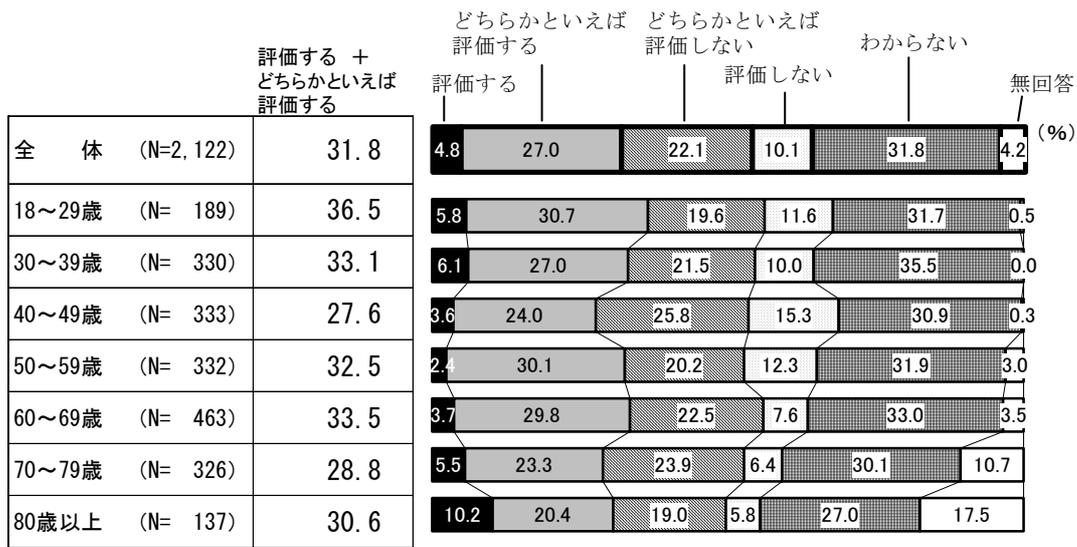
問3 5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.3%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.6%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は32.2%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、50歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が低い。一方、“わからない+無回答”の割合は、他の年齢層より40歳代で低く、70歳代以上で高くなっている。

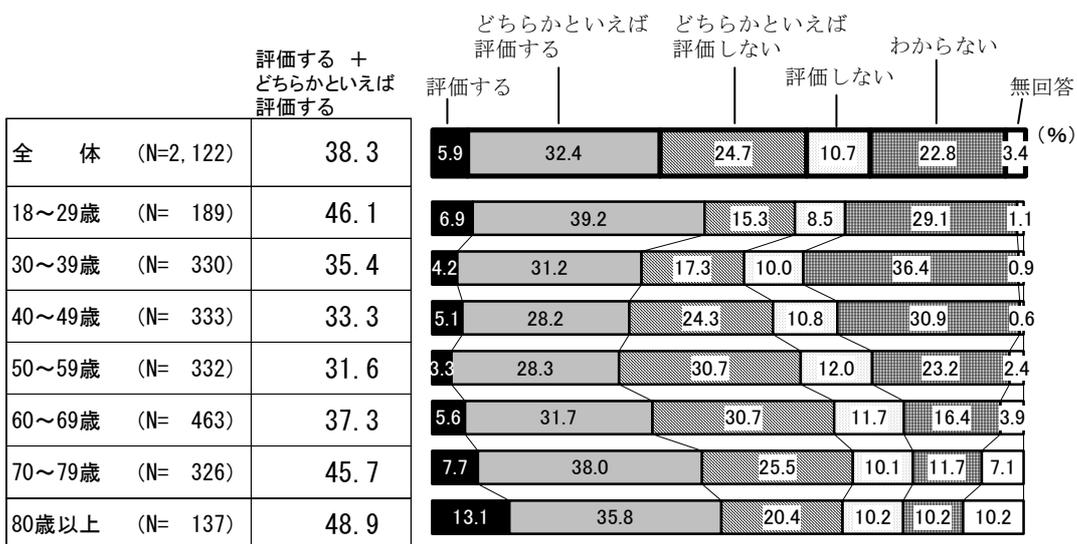
問3 6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が31.8%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.2%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は36.0%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、40歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が最も低く、“評価しない+どちらかといえば評価しない”が最も高くなっており、他の年齢層に比べて評価が低い。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳代以上で、他の年齢層より高くなっている。

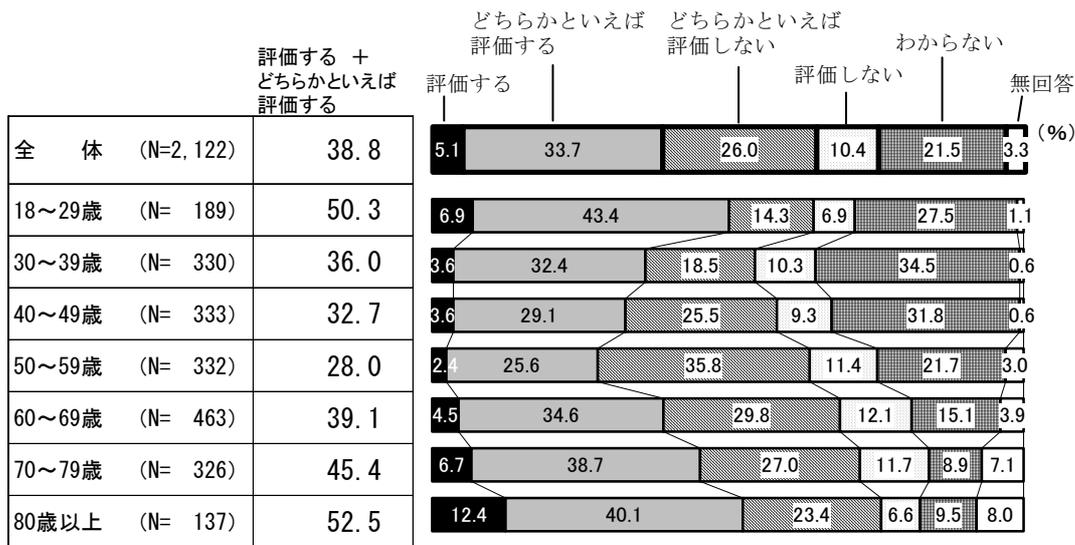
問4 1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.3%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(35.4%)を若干上回っている。

年齢層別では、18~29歳のほか、施策の対象の中心となる高齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、また、“わからない+無回答”は、年齢層が上がるほど低くなる傾向が見られる。これらは、本施策への関心度の違いによるものと考えられる。

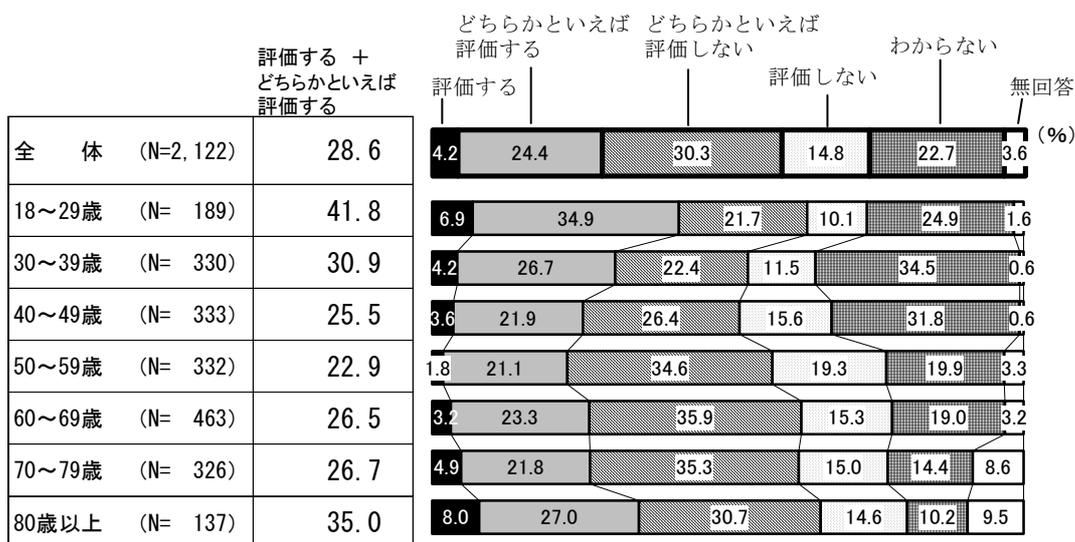
問4 2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることのできるまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.8%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(36.4%)を若干上回っている。

年齢層別では、若年層及び高齢層で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い一方、50歳代はこの割合が最も低い。これは、親が介護サービスを受給していると同時に自身にも関わる問題として関心度が増す年齢層であることが影響しているものと考えられる。“わからない+無回答”の割合は、40歳代以下で、他の年齢層より高くなっている。

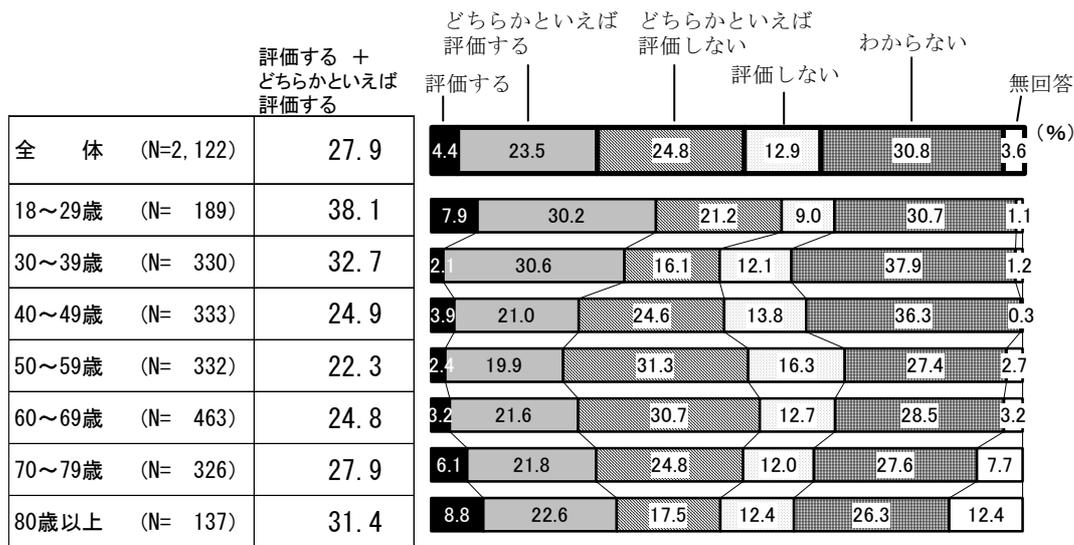
問4 3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.6%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(45.1%)を下回っている。

年齢層別では、介護者や被介護者が多い年齢層と考えられる40歳代以上70歳代以下で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が低い。一方、“わからない+無回答”の割合は、30歳代及び40歳代で他の年齢層より高いが、関心度の違いによるものと考えられる。

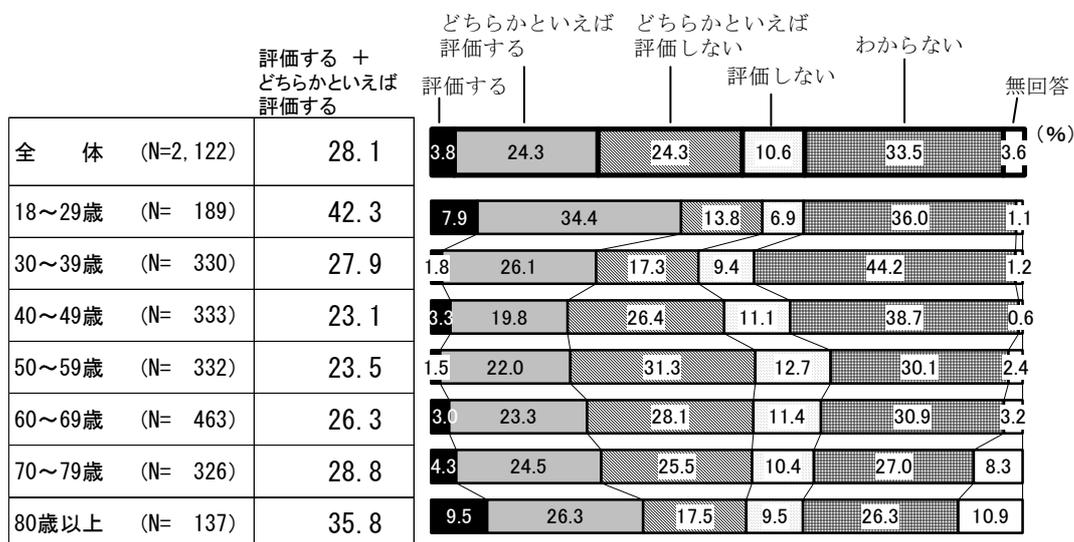
問4 4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.9%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(37.7%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は34.4%と高く、これは、施策の対象が限定されていることによるものと考えられる。

年齢層別では、若年層及び高齢層ほど、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層別の差はあまり見られない。

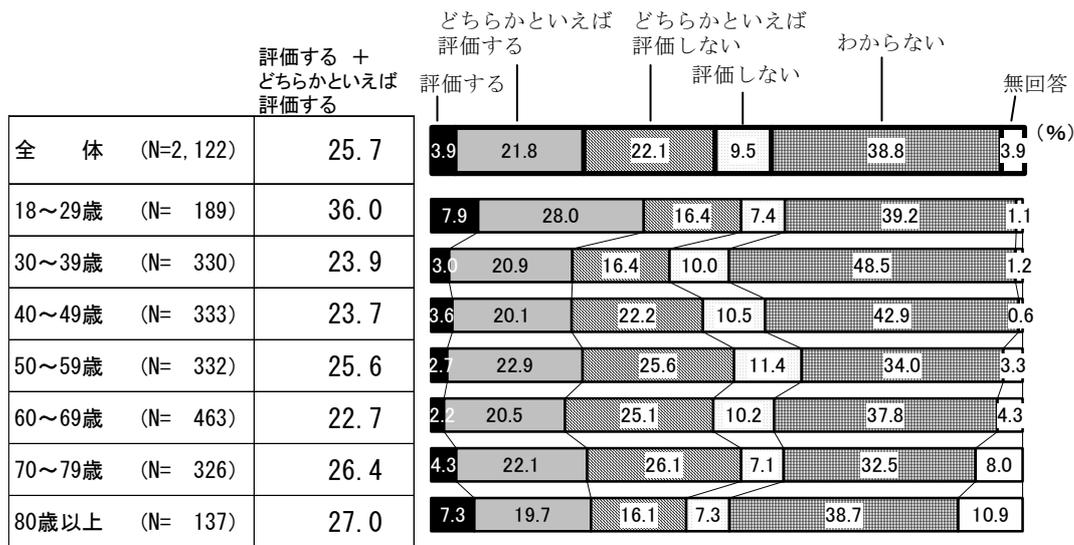
問4 5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(34.9%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は37.1%と高く、これは、施策の対象が限定されていることによるものと考えられる。

年齢層別では、若年層及び高齢層ほど“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は、30歳代で、他の年齢層より高くなっている。

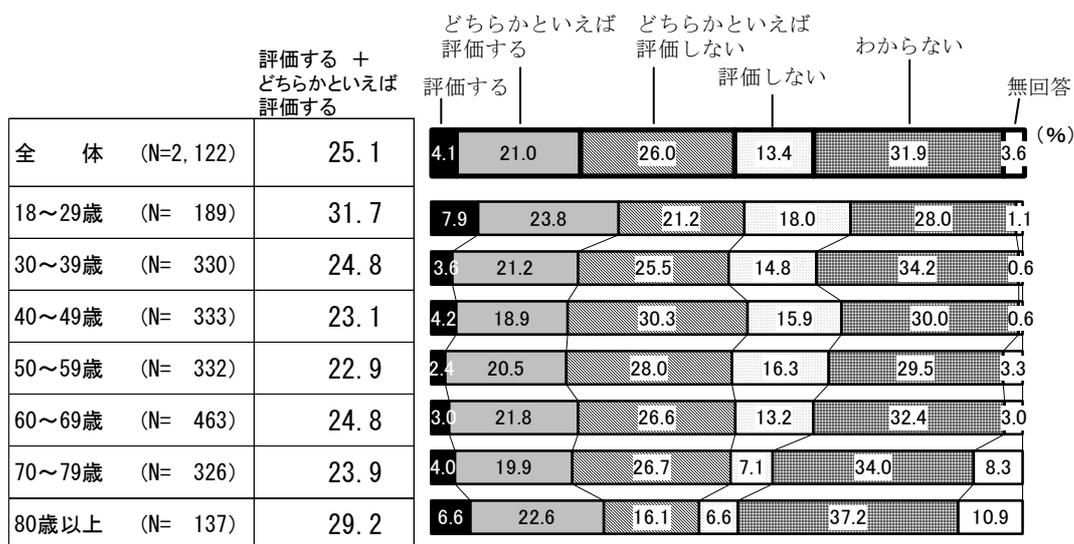
問4 6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(31.6%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は42.7%と非常に高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.0%となっており、他の年齢層と比べて評価が高い。一方、“わからない+無回答”の割合は、全ての年齢層で高くなっている。

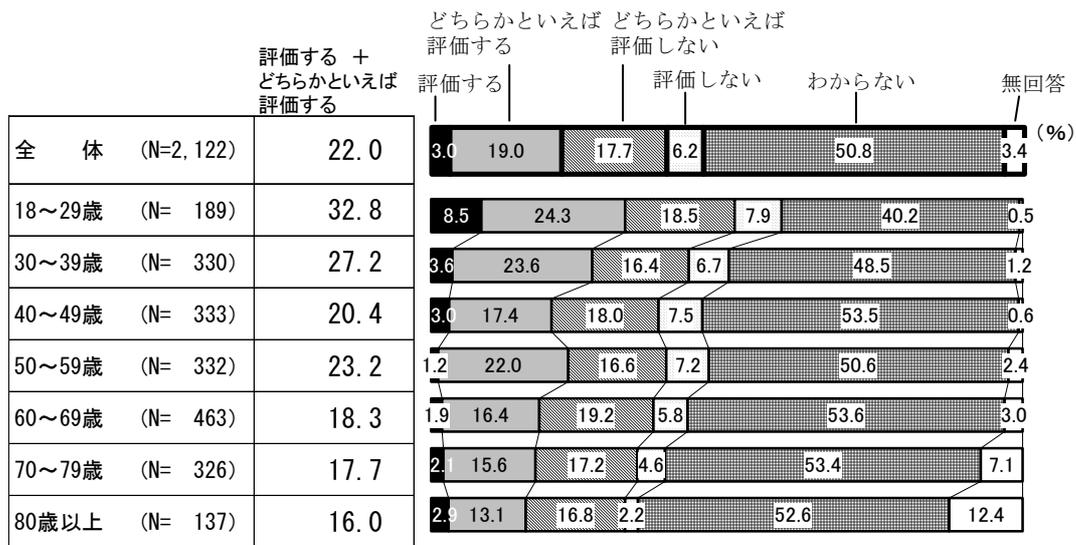
問4 7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.1%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(39.4%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は35.5%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、18~29歳及び80歳以上で、他の年齢層より若干高めとなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

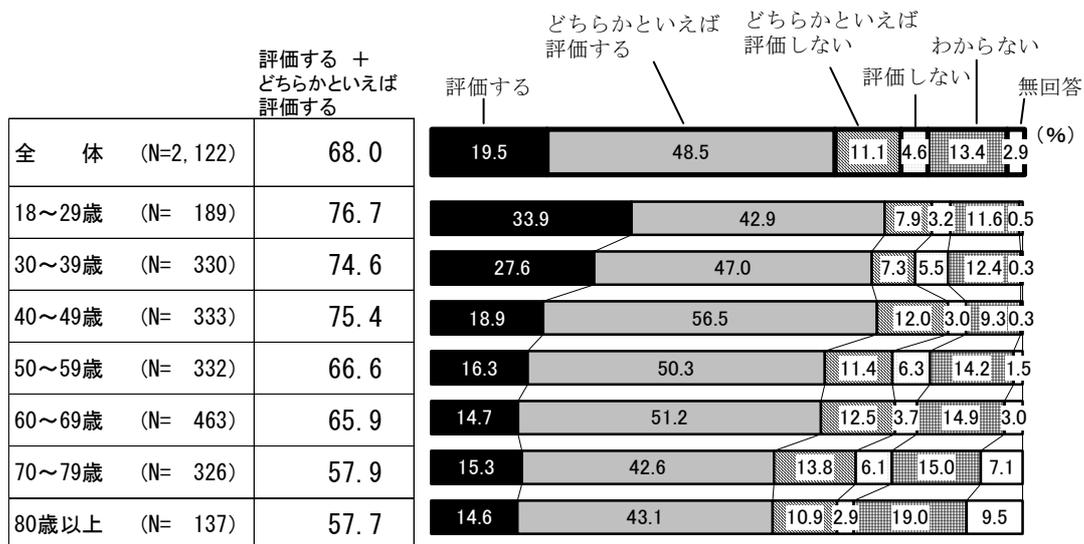
問4 8. 外国人が暮らしやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が22.0%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(23.9%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は54.2%と非常に高く、施策の認知度が低いことを示している。

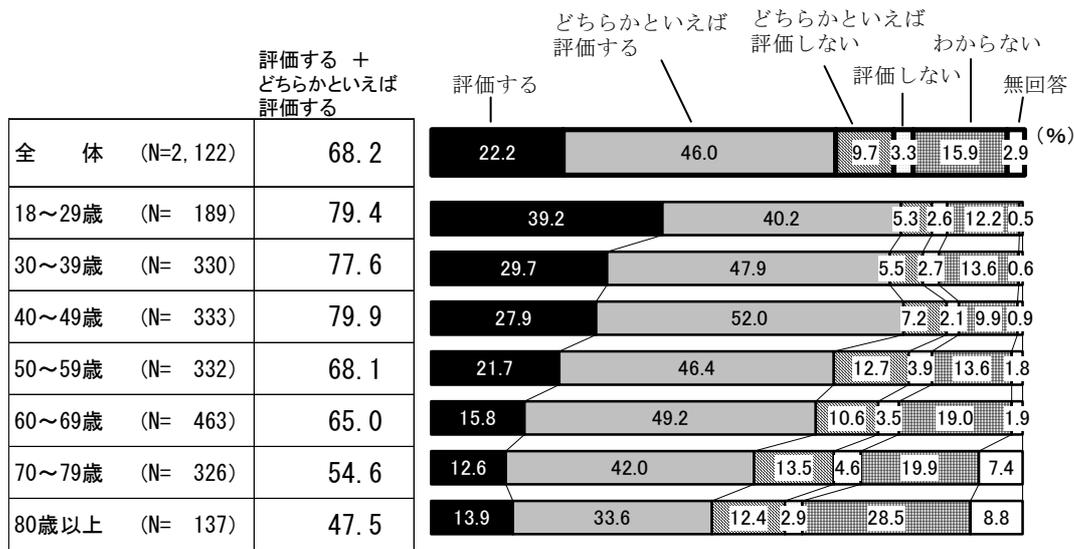
年齢層別では、年齢層が上がるほど“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が低くなる傾向が見られる。“わからない+無回答”の割合は、全ての年齢層で高いが、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

問5 1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が68.0%となっており、非常に高い。年齢層別では、年齢層が下がるほど“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い。一方、“わからない+無回答”の割合は逆の傾向を示しており、年齢層が下がるほど評価、関心ともに高いことを示している。

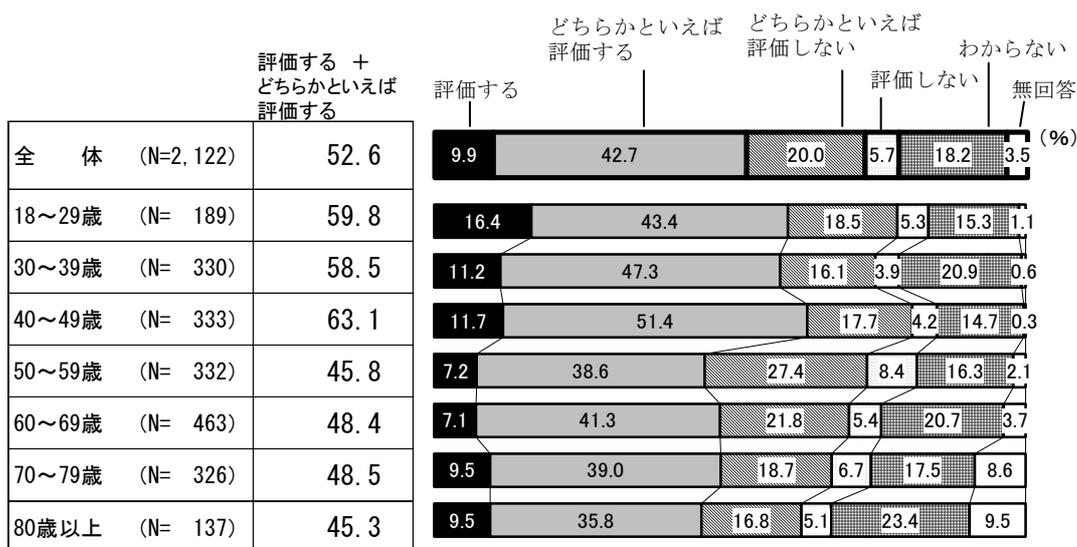
問5 2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が68.2%となっており、非常に高い。これは、「せんくら」や仙台国際音楽コンクールといったイベントを継続的に推進してきたことが評価されたものと考えられる。

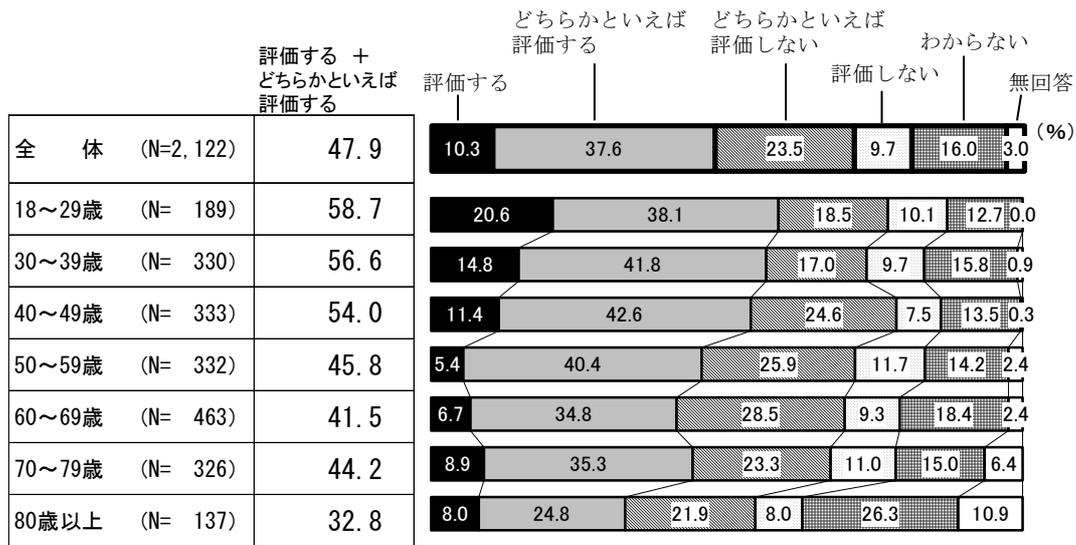
年齢層別では、40歳代以下で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7割を超えており、非常に高い評価となっている。一方、“わからない+無回答”の割合は逆の傾向となっており、年齢層が下がるほど評価、関心ともに高いことを示している。

問5 3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり



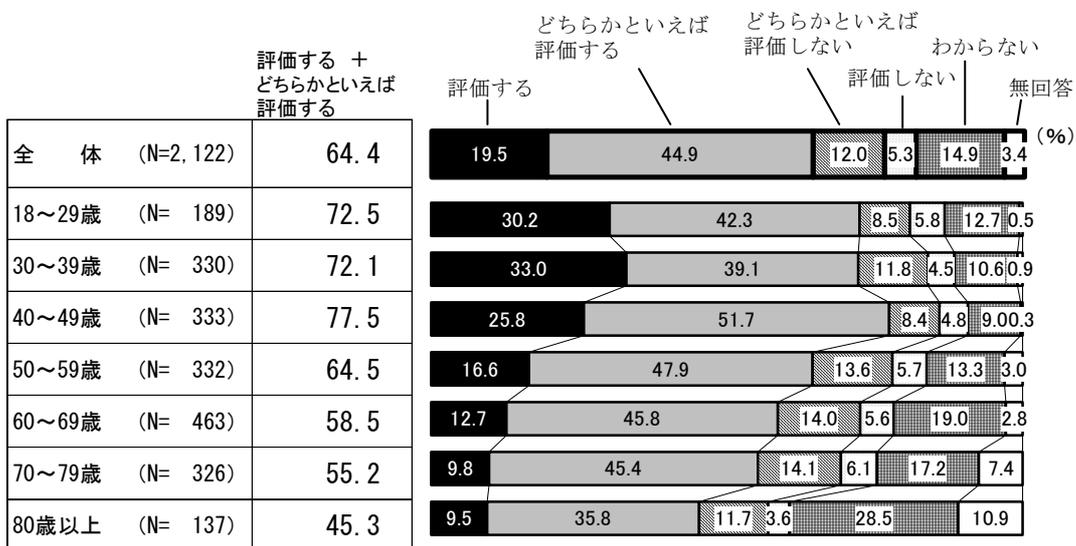
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が52.6%と、高い評価となっている。年齢層別では、40歳代以下の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が60%前後であるのに対し、50歳代以上は40%台となっており、50歳前後を境に評価に差がある。“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

問5 4. 身近にスポーツに取り組める環境づくり



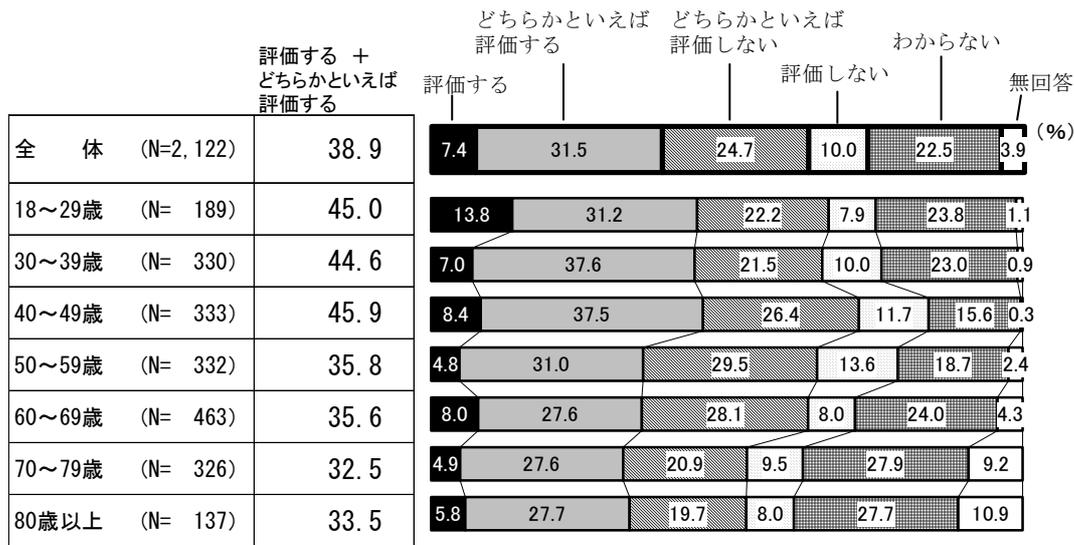
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が47.9%と、高い評価となっている。  
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は全般的に高めであるが、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなっており、高齢になるほど自らスポーツに取り組む機会が減少し、関心度も低くなる傾向を示しているものと考えられる。

問5 5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを通じた、スポーツに親しめる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が64.4%となっており、非常に高い。  
 年齢層別では、40歳代以下は“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7割を超えているのに対し、50歳代以上においては徐々に低くなっていくのと同時に、“わからない+無回答”が高くなる傾向が見られる。これは、年齢層によるプロスポーツやイベントなどに対する関心度の違いによるものと考えられる。

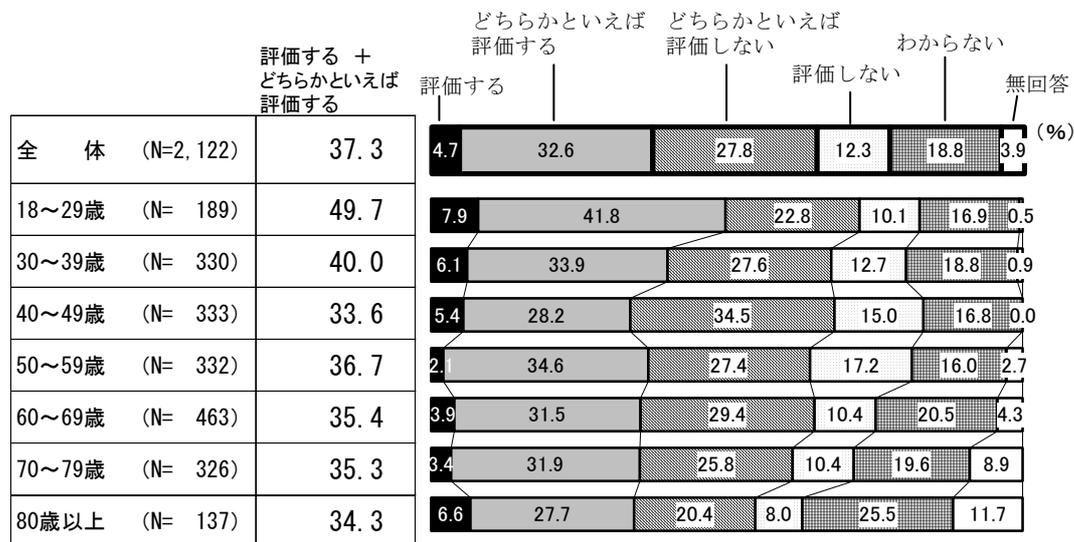
問 6 1 . 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.9%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”（34.7%）を若干上回っている。

年齢層別では、40歳代以下の評価に比べて50歳代以上の評価が低くなっており、特に50歳代の“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が他の年齢層と比べて高いのは、長引く景気の低迷を最も実感している年齢層であることも一因と考えられる。一方、“わからない+無回答”の割合は若年層及び高齢層で高くなっている。

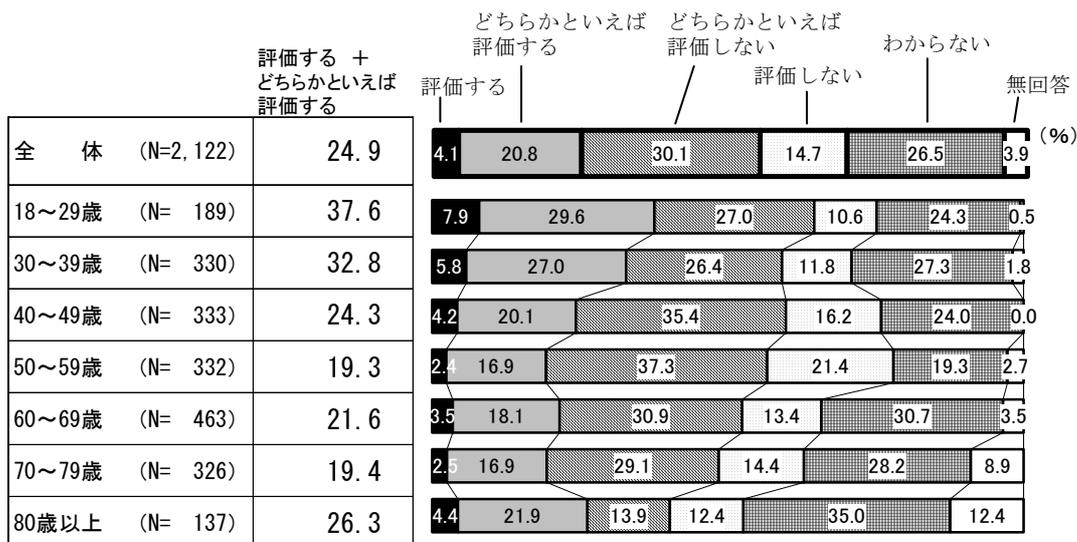
問 6 2 . 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が37.3%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”（40.1%）と拮抗している。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が約5割となっており、他の年齢層と比べて高い。“わからない+無回答”の割合は概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

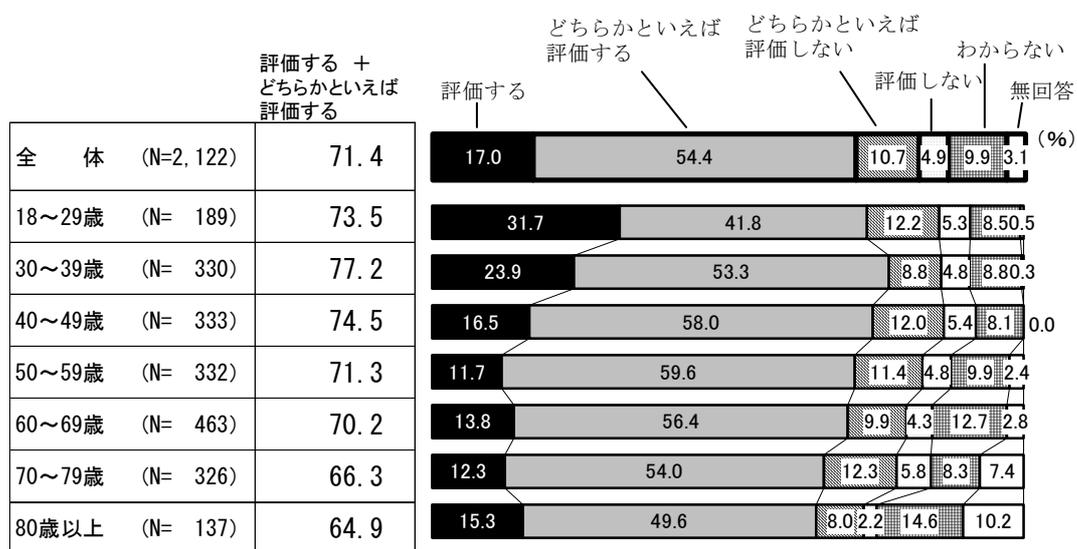
問 6 3 . 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が24.9%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(44.8%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は30.4%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、若年層及び80歳以上の年齢層において“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層に比べて高い傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合は60歳代以上で3割を超えており、他の年齢層よりも高くなっている。

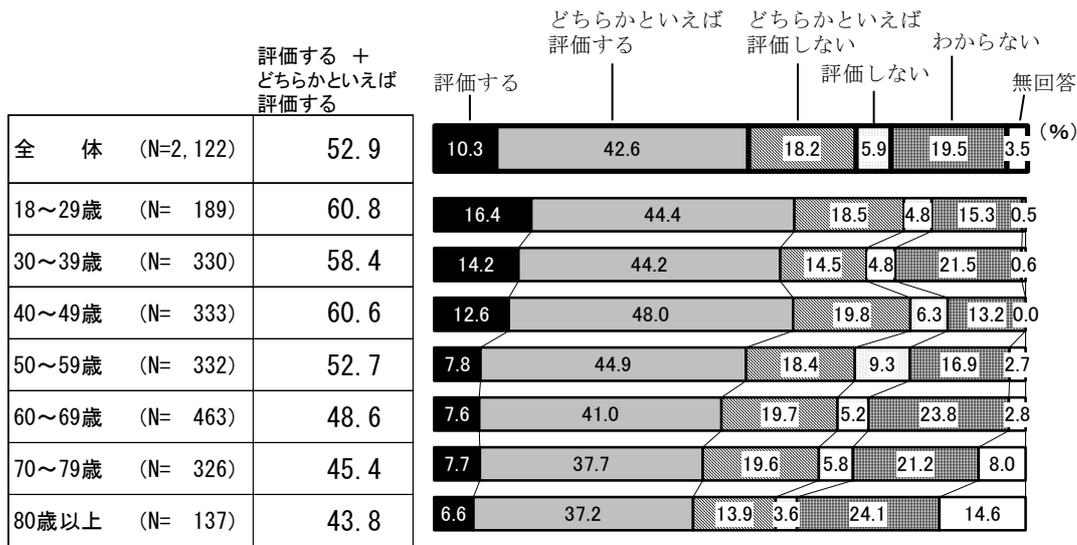
問 6 4 . まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が71.4%となっており、非常に高い。これは、四季折々に開催される多彩なまつりや、昨年仙台市で開催された東北六魂祭などのイベントが市民に広く認知されていることなどが高い評価につながっているものと考えられる。

年齢層別では、全年齢層において評価が高いが、“わからない+無回答”の割合は概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

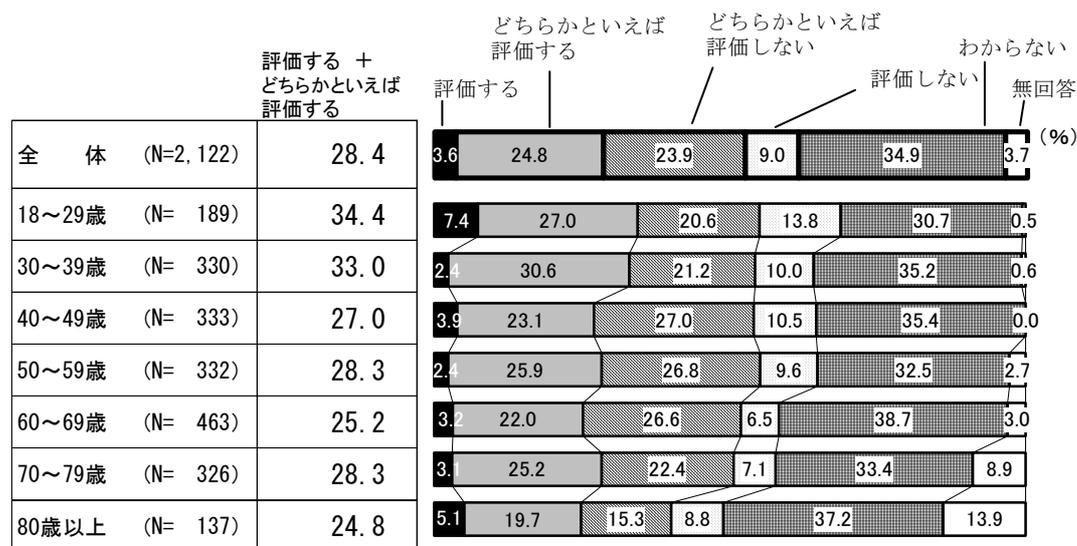
問6 5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が52.9%と、高い評価となっている。これは、デスティネーションキャンペーンや伊達武将隊などによるプロモーション活動が高く評価されているものと考えられる。

年齢層別では、40歳代以下で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が6割前後と高く、50歳代から年齢層が上がるほど低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は80歳以上で他の年齢層よりも高く、4割近くに達している。

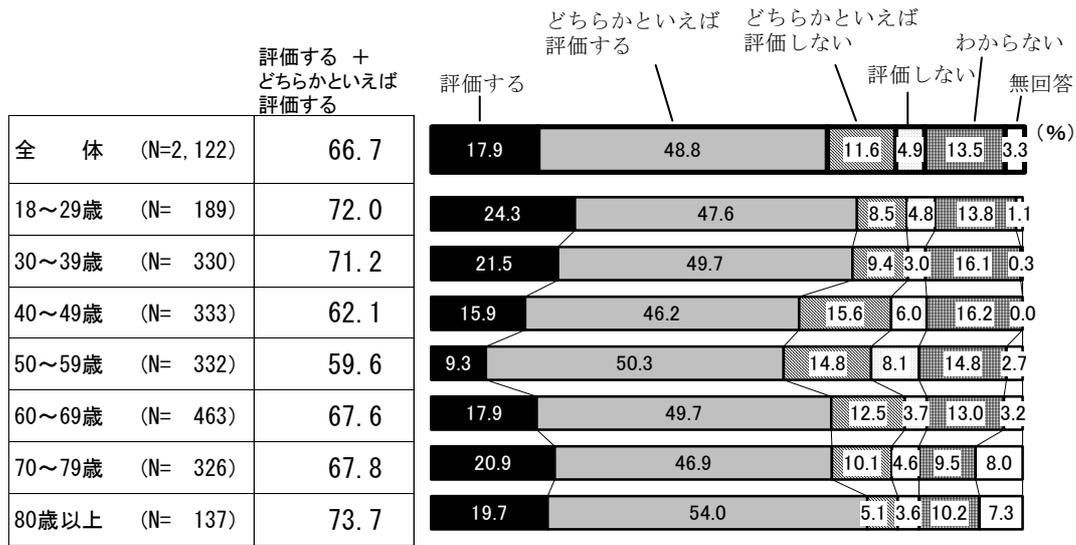
問6 6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.9%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は4割近くに達しており、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、“わからない+無回答”の割合は概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に80歳以上では5割を超えている。

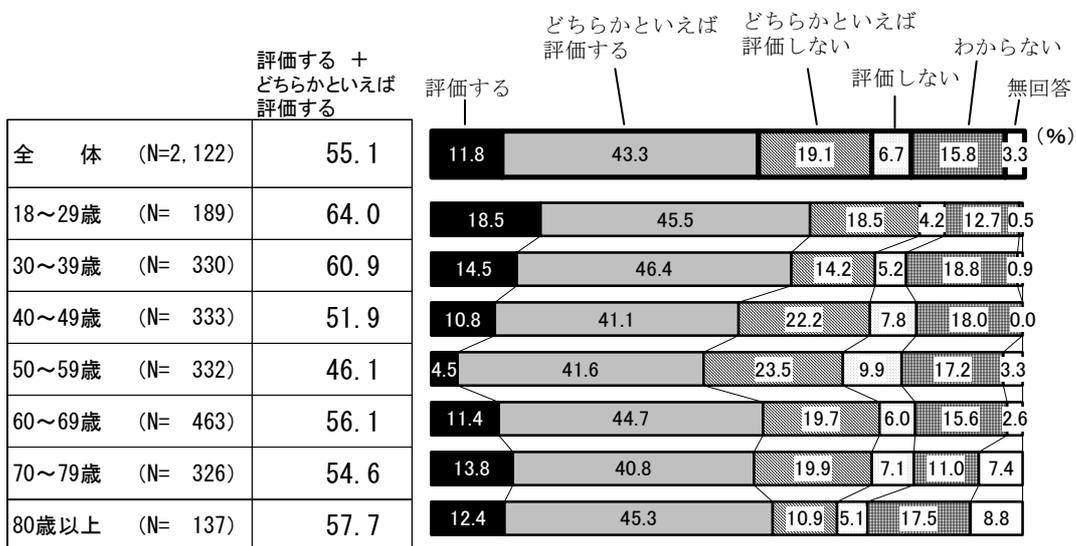
問7 1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が66.7%と非常に高く、「杜の都」としてのイメージが浸透していることが伺える。

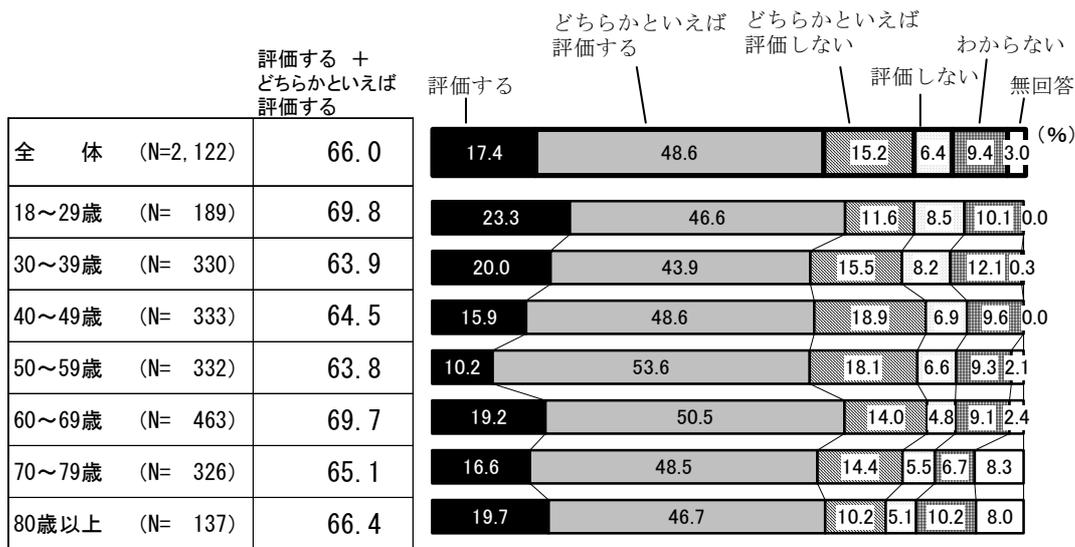
年齢層別で見ても全体的に高い評価となっているが、50歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層と比べて若干低めであること以外は特徴的な傾向は見られない。

問7 2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が55.1%と、高い評価となっている。年齢層別で見ても全体的に高い評価となっているが、50歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層と比べて若干低めであること以外は特徴的な傾向は見られない。

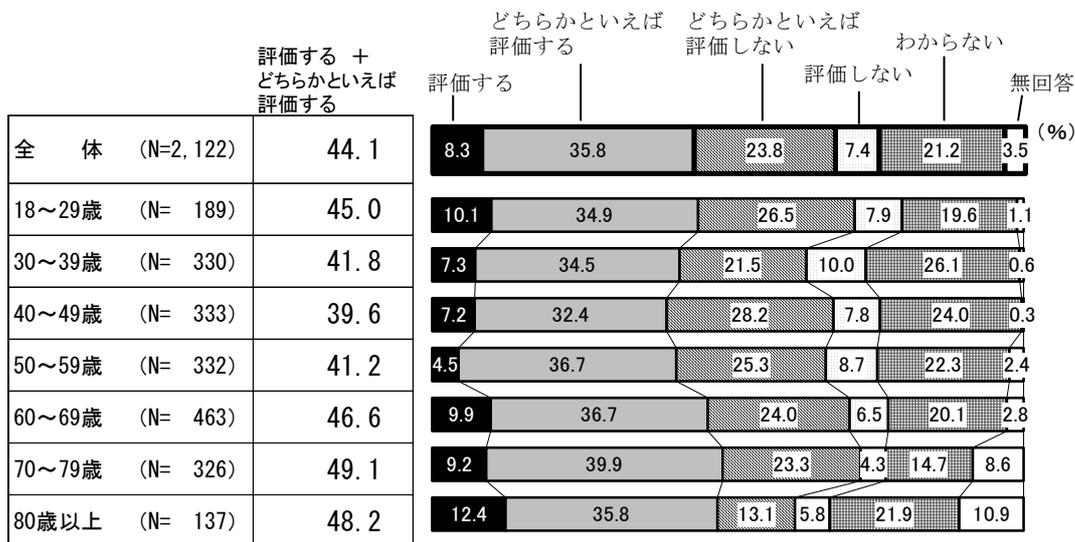
問7 3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が66.0%となっており、非常に高い。これは、キャラクターを活用した広報や紙類定期回収など、これまでのごみ減量・リサイクルへの取り組みが評価されたものと考えられる。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合にあまり差はみられず、“わからない+無回答”も概ね1割台となっており、全年齢層に、本市のごみ減量・リサイクル推進施策が浸透し、評価が高くなっていることが伺える。

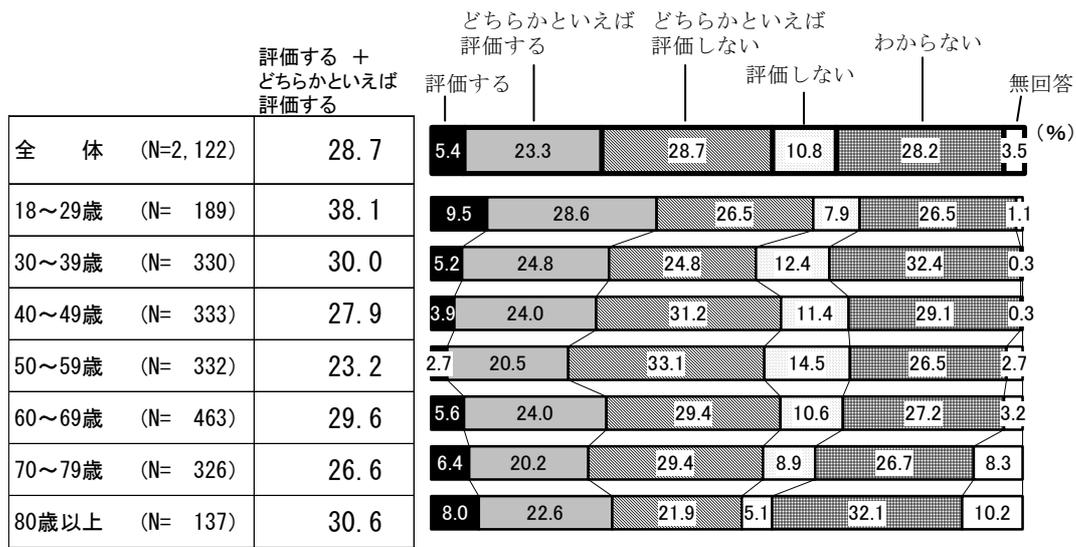
問7 4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が44.1%と高めなっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(31.2%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は24.7%と高めとなっている。

年齢層別では、80歳以上では“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が“評価しない+どちらかといえば評価しない”を特に大きく上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合についても、80歳以上で他の年齢層と比べて高い数値となっている。

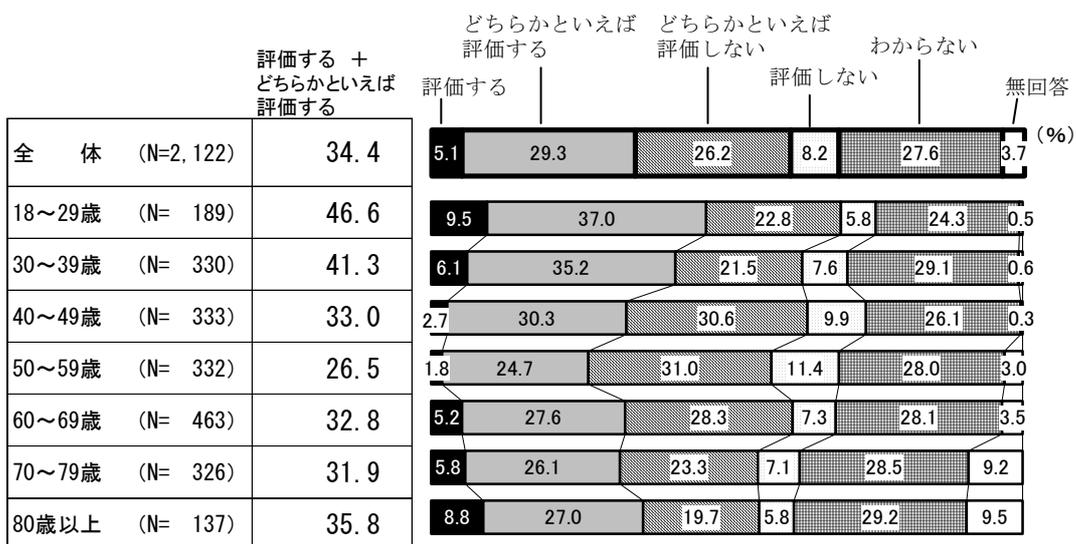
問 7 5 . 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.7%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(39.5%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は31.7%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層よりも高めであること以外は特徴的な傾向は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合は全体的に高く、特に80歳以上では4割を超えている。

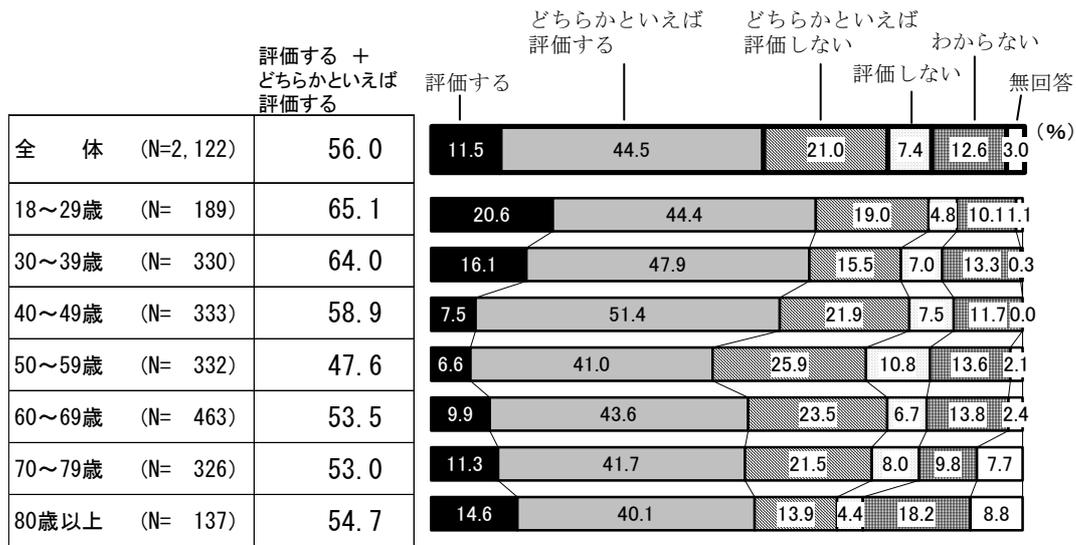
問 8 1 . 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合と“評価しない+どちらかといえば評価しない”がいずれも34.4%と、評価は拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は31.3%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

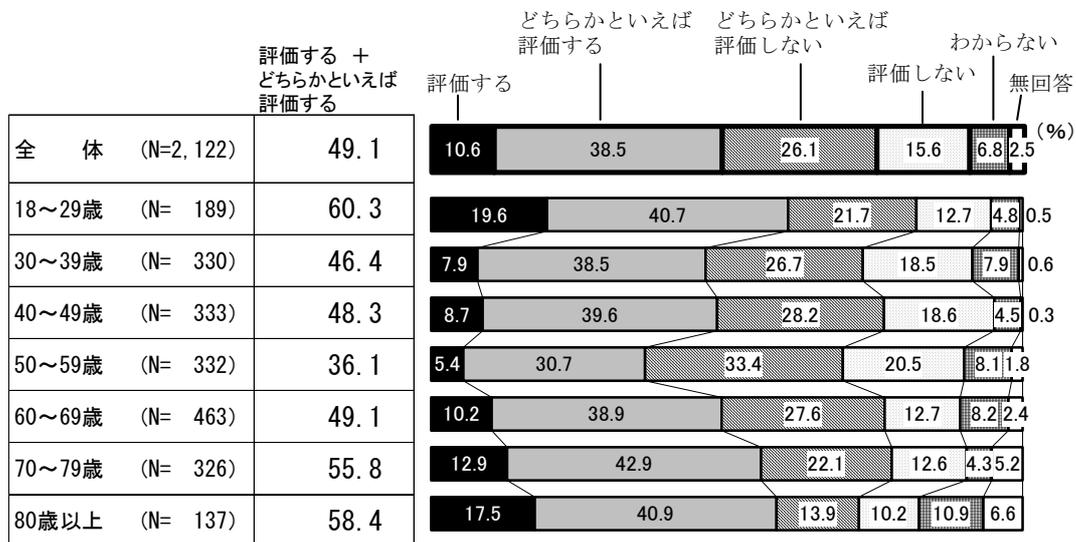
年齢層別では、評価する+どちらかといえば評価する”の割合が若年層及び高齢層ほど高くなる傾向が見られる。“わからない+無回答”の割合は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

問 8 2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が56.0%と、高い評価となっている。年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合がほとんどの年齢層で5割を超えているが、50歳代は4割台にとどまっており、他の年齢層よりも評価は若干低くなっている。

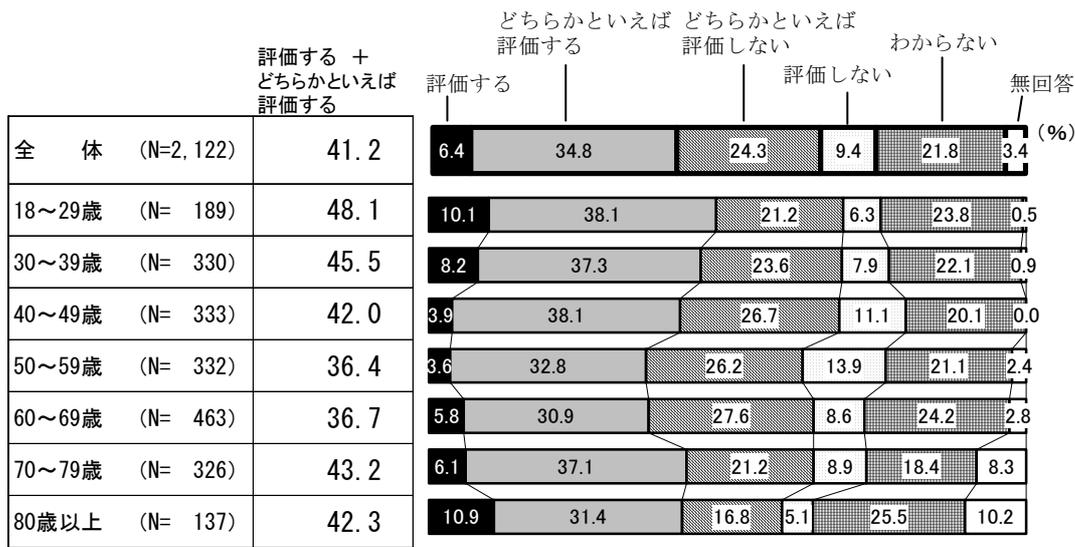
問 8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が49.1%と高く、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(41.7%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合はほとんどの年齢層で一桁であり、全ての年齢層にわたって施策の認知度が高いことを示している。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50歳代で他の年齢層よりも低くなっていること以外は特徴的な傾向は見られない。

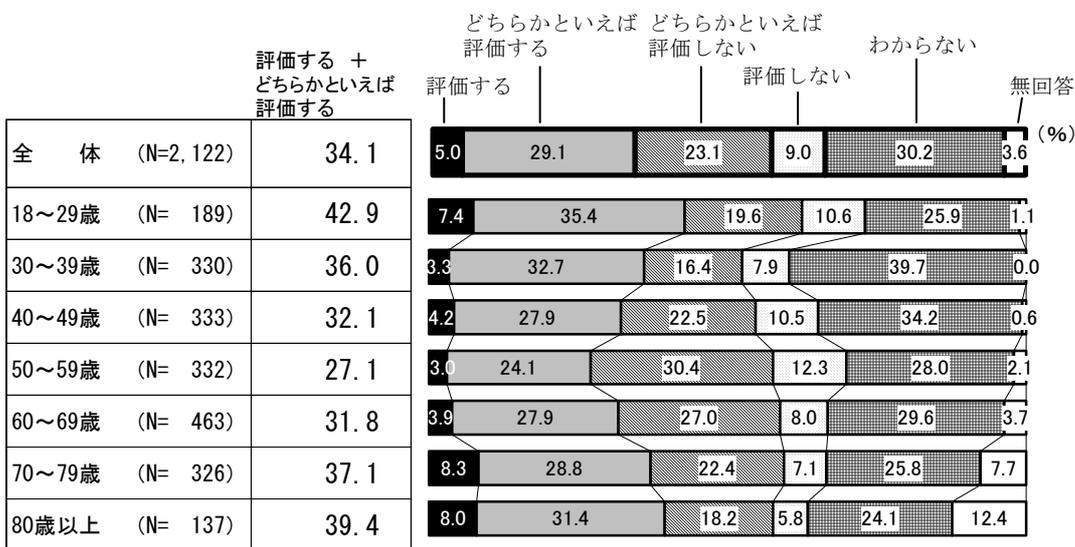
問 8 4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が41.2%と高めとなっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.7%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は25.2%と高めとなっている。

年齢層別では、全ての年齢層で高めの評価を受けており、特徴的な傾向は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合は80歳以上で3割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

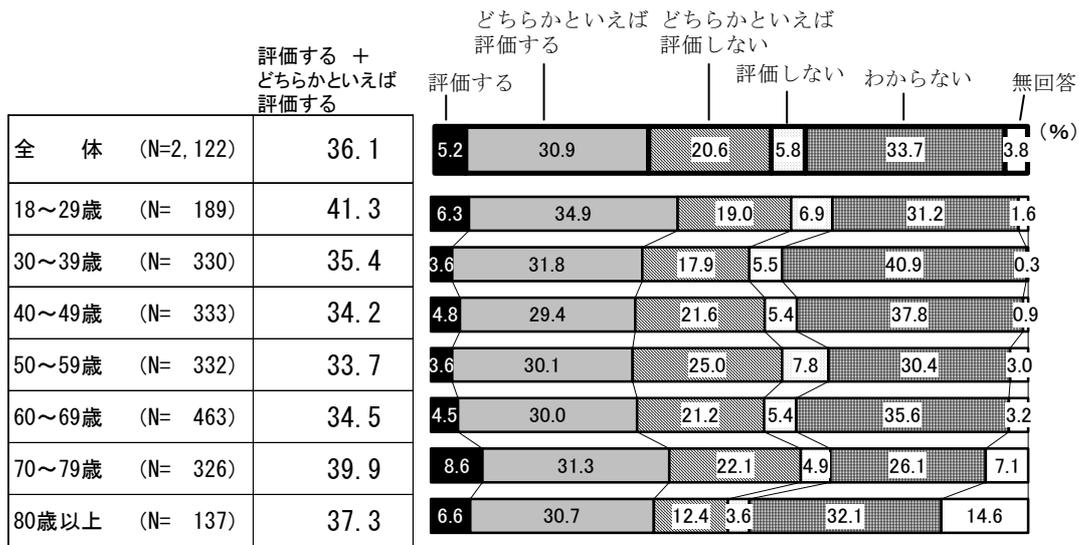
問 9 1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.1%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合は33.8%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、概ね若年層及び高齢層ほど評価が高くなる傾向が見られるが、“わからない+無回答”の割合は、18~29歳が他の年齢層よりも低い結果となっている。

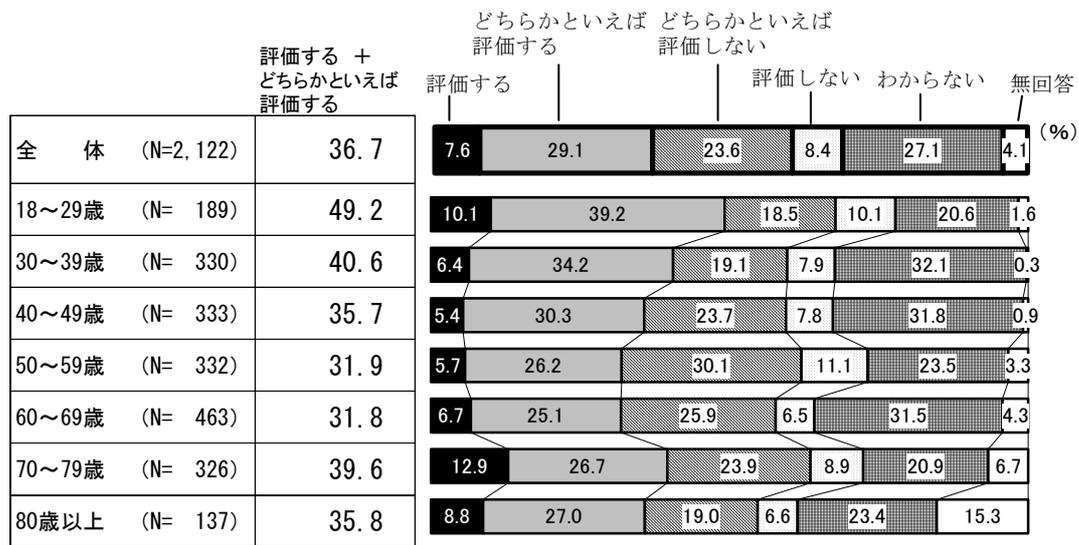
問9 2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(26.4%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は37.5%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、全ての年齢層において“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が3割前後となっており、特徴的な傾向は見られない。“わからない+無回答”の割合についても、年齢層ごとの特徴的な傾向はあまり見られない。

問9 3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”割合が36.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.0%)を若干上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合は31.2%と高く、施策の認知度が低いことを示している。

年齢層別では、18~29歳及び30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高めであるのに対し、50歳代及び60歳代では低めとなっている。施策の当事者である若年層とその親の世代で認識が若干異なっていることが伺える。

### 3. 自由意見

復興に向けた取り組みなどを含め、市政全般に関する自由意見を取りまとめたところ、以下のようになった。

意見の件数は複数回答の取り扱いとしている。

#### ◆大分類

分類項目	件数
1 市政に対する意見	1,066 件
2 アンケートに対する意見	60 件
3 その他	38 件
総意見数（回答者数 664 名）	1,164 件

#### ◆中分類（※大分類 1「市政に対する意見」を細分化）

分類項目	件数
1 東日本大震災からの復旧・復興	237 件
2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり	45 件
3 子育て支援や教育環境づくり	91 件
4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり	67 件
5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり	19 件
6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進	73 件
7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり	26 件
8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり	141 件
9 市政や公益活動への市民参加の促進	71 件
10 その他（市政関連）	296 件
総意見数	1,066 件

#### ◆小分類（※中分類をさらに細分化）

分類項目	件数	
1 東日本大震災からの復旧・復興	1 被災された方々への生活再建支援	35 件
	2 原発・放射能対策	24 件
	3 集団移転や復興公営住宅の建設など住まいの確保	17 件
	4 震災がれきの処理	15 件
	5 ライフラインや公共施設の復旧	12 件
	6 防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	10 件
	7 津波防災対策	7 件
	8 農地の復旧や、大規模化などによる農業再生	5 件
	9 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	5 件
	10 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	4 件
	11 公園の再整備や自然環境再生などによる海辺の再生	2 件
	12 その他（震災関連）	101 件
せに2 る安 ま心 ち健 ち康 つし て暮 くり安 ら全	1 地震・集中豪雨など災害対策	13 件
	2 交通マナー	13 件
	3 医療サービス・救急医療体制	11 件
	4 防犯対策	6 件
	5 健康づくり	2 件

分類項目		件数
づ教て3 育支 環援子 境や育	1 保育所の整備や相談事業等	34 件
	2 学童保育などの子育て環境	34 件
	3 学校教育・教育環境	23 件
りしき4 や、 す自誰 い立も 環しが 境て共 づ暮に くら生	1 高齢者福祉	37 件
	2 障害者福祉	12 件
	3 生活保護	10 件
	4 国際化関連	5 件
	5 バリアフリーのまちづくり	3 件
りる術5 環に親や 境にス文 づつポ化 くめー芸	1 芸術や文化の振興	11 件
	2 スポーツのための施設・サービス	5 件
	3 プロスポーツ	3 件
光る6 交産 流業東 促の北 進の振 興と牽 引と観 す	1 雇用対策	29 件
	2 観光資源やイベントを生かしたまちづくり	14 件
	3 商店街の活性化や地域産業の振興	10 件
	4 地産地消の推進など農業政策	5 件
	5 その他（産業観光関連）	15 件
ちの和フ づ都し くりをな 育が自然 むらと ま杜調	1 緑の保全・創出	11 件
	2 その他（環境関連）	9 件
	3 ごみ減量・リサイクル	4 件
	4 公害防止や温暖化防止など環境保全	2 件
8 公 共 交 通 中 心 の 交 通 体 系 づ く り	1 公共交通	49 件
	2 基幹となる道路ネットワークの整備	15 件
	3 良好な住環境の整備	14 件
	4 道路の管理	13 件
	5 自転車対策	12 件
	6 地下鉄東西線	10 件
	7 街並みや景観	9 件
	8 渋滞緩和	8 件
	9 都市再開発や市街地の活性化	2 件
	10 その他（まちづくり・交通関連）	9 件
の公9 促市益 進民活 参動市 加へ政 や	1 広報政策	55 件
	2 市民参加によるまちづくり	9 件
	3 その他（市民参画関連）	7 件
10 そ の 他 （ 市 政 関 連 ）	1 行政運営全般	122 件
	2 パンダ誘致関連	61 件
	3 窓口サービスや職員	39 件
	4 市長	27 件
	5 税	8 件
	6 市民生活全般	5 件
	7 その他（公共施設について等）	34 件
総意見数		1,066 件

市政に対する意見について、＜中分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、『1 東日本大震災からの復旧・復興 (237 件)』が最も多く、次に『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり (141 件)』、『3 子育て支援や教育環境づくり (91 件)』、『6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進 (73 件)』、『9 市政や公益活動への市民参加の促進 (71 件)』、『4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり (67 件)』が続いている。

『1 東日本大震災からの復旧・復興』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 被災された方々への生活再建支援 (35 件)」では、住まいや雇用の確保、各種情報の提供や相談など、生活各般において更なる支援を望む意見が寄せられている。また、「2 原発・放射能対策 (24 件)」では、食品等の安全確保のため、安全基準の明確化や検査体制の充実、正確な情報発信等を望む意見が寄せられている。

『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 公共交通 (49 件)」では、バス・地下鉄のダイヤの充実、バリアフリー化の推進、運賃の見直し等を望む意見が寄せられている。

『3 子育て支援や教育環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順で見ると、「1 保育所の整備や相談事業等 (34 件)」では、認可保育所の整備や幼稚園の活用による待機児童解消のほか、預かり保育や障害児保育など各種保育サービスの充実等を望む意見が寄せられている。「2 学童保育などの子育て環境 (34 件)」では、母子家庭・父子家庭の支援充実や、学童保育サービスの充実等を望む意見が寄せられている。

『6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 雇用対策 (29 件)」では、若者の雇用対策強化、雇用環境の改善、障害者の就労支援の充実等を望む意見が寄せられている。

『9 市政や公益活動への市民参加の促進』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 広報政策 (55 件)」では、復興関連も含む市のビジョン・施策の分かりやすい情報発信、マスコミ等を活用した内外へのPR強化等を望む意見が寄せられている。

『4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 高齢者福祉 (37 件)」では、介護施設の整備や介護サービスの充実のほか、いきがづくり・健康づくり環境や独居高齢者対策の充実等を望む意見が寄せられている。

最後に、『10 その他 (市政関連)』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 行政運営全般 (122 件)」では、仙台の発展に向けた意見や、震災を踏まえた今後の市政のあり方への提言などが寄せられている。また、「2 パンダ誘致関連 (61 件)」では、パンダの誘致に対する賛否双方の意見が寄せられている。さらに、「3 窓口サービスや職員 (39 件)」では、土・日曜日における区役所サービスの拡充、市職員の窓口対応や公務に対する姿勢等に関する意見が寄せられている。

### Ⅲ. 資 料

## 平成 24 年度「施策目標に関する市民意識調査」へのご協力をお願い

市民の皆さまへ

平成 24 年 6 月  
仙 台 市

市民の皆さまには、日頃より仙台市政の運営にご協力いただきますとともに、東日本大震災からの復旧・復興につきましても、皆さまのお力が大きな原動力となり仙台の再生に向けたさまざまな取り組みが進んでおりますことに、深く感謝申し上げます。

この調査は、震災からの復興や今後のまちづくりに向けた取り組みへの活用等を目的として、本市の主な施策に対する評価などを市民の皆さまにお聞きするものです。

調査にご協力いただく皆さまにつきましては、区ごとの人数などを考慮した上で、住民基本台帳から無作為に選ばせていただいております。

調査票へのご回答につきましては、無記名でお答えいただきますほか、その結果は、例えば「1 番の意見の方が計何人で、全体の何パーセント」などのように統計的に集計し公表いたしますので、皆さま個人にご迷惑のかかるようなことはございません。お手数とは存じますが、本調査にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、調査結果につきましては、本年 9 月に、本市のホームページなどによりお知らせする予定です。

### お問い合わせ先

仙台市 総務企画局 企画部 企画調整課 電話 022-214-1110・0001

### ＊ ＊ ご記入にあたってのお願い ＊ ＊

1. ご回答は、必ず**ご本人が無記名**で行ってください。
2. ご回答にあたっては、設問の内容をよくお読みいただき、あてはまる番号や欄に○をつけてください。「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容をお書きください。
3. ご記入が終わりましたら、記入内容をお確かめのうえ、**専用の返信用封筒（切手不要）に本調査票を封入し、平成 24 年 6 月 25 日（月）**までにご投函ください。

※返信用封筒表面のバーコードは、料金受取人払いとするため郵便局からの指示で印刷したもので、ご回答された方を特定するものではありません。

4. ご回答の際、ご不明な点などございましたら、上記までお問い合わせください。

## 平成 24 年度「施策目標に関する市民意識調査」調査票

**はじめに、あなたご自身や世帯の状況についておたずねします。**

F1 あなたの性別をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

1 男	2 女
-----	-----

F2 あなたの年齢をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

1 18～19 歳	2 20～29 歳	3 30～39 歳	4 40～49 歳
5 50～59 歳	6 60～69 歳	7 70～79 歳	8 80 歳以上

F3 あなたの現在のお住まいは、次のどれですか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 持ち家（一戸建て）	2 持ち家（集合住宅）	3 賃貸住宅（一戸建て）
4 賃貸住宅（集合住宅）	5 社宅・官舎・寮	6 応急仮設住宅
7 その他（ ）		

F4 あなたご自身のお仕事は大きく分けて、次のどれにあたりますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 経営者、役員	2 会社員、公務員など常勤の職員
3 臨時雇用、パート、アルバイト、内職	4 自営業者またはその家族従業者
5 専業主婦・主夫	6 学生
7 無職	8 その他（ ）

F5 現在同居されている世帯の構成はどのようになっていますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 一人暮らし	2 夫婦のみ
3 二世帯世帯（あなたの世代と親）	4 二世帯世帯（あなたの世代と子ども）
5 三世帯世帯（あなたを含めて三世帯）	6 その他（ ）

F6 あなたのお住まいの場所（区）をお答えください。

あてはまる番号に○をつけてください。

1 青葉区	2 宮城野区	3 若林区	4 太白区	5 泉区
-------	--------	-------	-------	------

F7 あなたが仙台市（合併前の旧市町村を含む。）にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

※一度市外に転出して、また転入した方は、通算の年数をお答えください。

1 1 年未満	2 1～3 年未満	3 3～5 年未満	4 5～10 年未満
5 10～20 年未満	6 20～30 年未満	7 30 年以上	

F8 東日本大震災による被災の状況について、行政機関による「り災証明」の有無及びその内容等により、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 全壊	2 大規模半壊
3 半壊	4 一部損壊
5 申請中	6 り災証明を受けていない

## 仙台市の東日本大震災からの復旧・復興施策に関しておたずねします。

**問 1** あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の1～10の施策それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
 また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

東日本大震災からの復旧・復興施策	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	わからない	力をいれるべき施策
1. 水道、ガス、地下鉄等のライフラインや市民利用施設など公共施設の復旧	1	2	3	4	5	
2. 震災がれきの処理	1	2	3	4	5	
3. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策	1	2	3	4	5	
4. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保	1	2	3	4	5	
5. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	1	2	3	4	5	
6. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援	1	2	3	4	5	
7. 東部地域の農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援	1	2	3	4	5	
8. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生	1	2	3	4	5	
9. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	1	2	3	4	5	
10. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	1	2	3	4	5	

**震災復興関連以外の仙台市の施策に関しておたずねします。**

**健康で安全に安心して暮らせるまちづくり**

**問2** 仙台市の「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 医療サービスや救急医療体制の充実	1	2	3	4	5	
2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	1	2	3	4	5	
3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	1	2	3	4	5	
4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	1	2	3	4	5	
5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	1	2	3	4	5	
6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	1	2	3	4	5	
7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	1	2	3	4	5	

**子育て支援や教育環境づくり**

**問3** 仙台市の「子育て支援や教育環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 児童館の整備やささまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	1	2	3	4	5	

4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	1	2	3	4	5	
5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

**誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり**

**問 4** 仙台市の「誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることのできるまちづくり	1	2	3	4	5	
3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	1	2	3	4	5	
5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	1	2	3	4	5	
7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	
8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	1	2	3	4	5	

## 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり

**問5** 仙台市の「文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
 また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
2. 「せんくら（ ）」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	1	2	3	4	5	
4. 身近にスポーツに取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを通じた、スポーツに親しめる環境づくり	1	2	3	4	5	

（ ）「せんくら」：仙台クラシックフェスティバル

## 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進

**問6** 仙台市の「東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
 また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	1	2	3	4	5	
2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり	1	2	3	4	5	
3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	1	2	3	4	5	
4. まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり	1	2	3	4	5	
5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	1	2	3	4	5	
6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	1	2	3	4	5	

## 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり

**問7** 仙台市の「自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	1	2	3	4	5	
2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	1	2	3	4	5	
3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	1	2	3	4	5	
4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	1	2	3	4	5	
5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	1	2	3	4	5	

## コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり

**問8** 仙台市の「コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	1	2	3	4	5	
2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	1	2	3	4	5	
3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり	1	2	3	4	5	
4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	1	2	3	4	5	

**市政や公益活動への市民参加の促進**

**問 9** 仙台市の「市政や公益活動への市民参加の促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。  
 また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。（○は複数可）

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	1	2	3	4	5	
2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。  
 なお、復興に向けた取り組みなども含め、市政各般に関するご意見などがございましたら、下欄にご記入ください（紙幅が不足する場合、お手持ちの用紙などにご記入願います。）。

[ご意見など]

平成 24 年度  
施策目標に関する市民意識調査  
報告書

平成 24 年 8 月発行

---

仙台市 総務企画局 企画部 企画調整課  
〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3 丁目 7 番 1 号  
TEL 022-214-1110・0001  
調査受託：株式会社東日本リサーチセンター

※再生紙を使用しています。